

## 兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書IV

平成 30 (2018) 年 3 月

兵庫県教育委員会

# 兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書IV

平成30（2018）年3月

兵庫県教育委員会



## 例言

- 1 本書は、兵庫県立考古博物館の研究テーマの1つである「兵庫県内における古代官道に関する調査研究」に伴う報告書で、文化庁より補助金の交付を得ている。
- 2 今回の報告に係る調査は、平成29年度に分布調査、平成29年度に分布調査、出土品整理作業と報告書作成を実施した。
- 3 調査の進行にあたっては、古代官道調査委員会を組織し、調査の各段階で委員会における検討を加えた。平成29年度の委員会の委員は、玉田芳英（奈良文化財研究所）、馬場 基（奈良文化財研究所）の2氏に委嘱した。
- 4 分布調査の報告については各調査担当者の作成した古代官道調査シートに基づき池田征弘が編集を行った。その他の執筆・編集は、池田が担当した。
- 5 分布調査にかかわる遺物と本調査に関わる写真・図面は、兵庫県立考古博物館が管理・保管している。
- 6 調査・整理にあたっては、下記の方々および機関のご協力・ご指導を得た。記して謝意を表します。  
浅井達也、稻原明嘉、大谷輝彦、岡本一士、岸本道昭、島田 拓、志水豊章、藤木 透、森岡秀人、  
山中リュウ、義則敏彦  
明石市、明石市教育委員会、朝来市教育委員会、芦屋市教育委員会、伊丹市教育委員会、加古川市教育委員会、上郡町教育委員会、顧榮寺、佐用町教育委員会、たつの市教育委員会、姫路市教育委員会
- (敬称略、五十音順)

# 目次

## 例言

### 第1章 調査研究の契機と経過

第1節 調査の趣旨	1
第2節 第Ⅰ期調査について	1
第3節 第Ⅱ期調査について	2
第4節 第Ⅲ期調査について	2
第5節 第Ⅳ期調査について	3

### 第2章 分布調査の調査成果

第1節 分布調査の概要	5
第2節 山陽道の調査	
1 「昆陽」廃止駅家推定地	7
2 葦原駅家	7
3 須磨駅家	14
4 明石駅家	18
5 「邑美」駅家	19
6 「邑美」一賀古間古代山陽道	24
7 賀古駅家	25
8 佐突駅家	30
9 草上駅家	31
10 大市駅家	41
11 布勢駅家	41
12 高田駅家	46
13 野磨駅家	50
第3節 美作道・因幡道の調査	
1 越部駅家	51
2 中川駅家	56
3 中川—美作国府間古代美作道・佐用一道保間古代因幡道	57

### 第3章 駅家遺跡関連遺物の調査

第1節 調査の趣旨	62
第2節 加古川市教育委員会所蔵瓦の調査	62

## 挿図目次

第1図 兵庫県下の古代官道と駅家	6	第21図 草上駅家の写真（2）	37
第2図 「昆陽」廃止駅家推定地の位置図	8	第22図 草上駅家の位置図（3）	38
第3図 「昆陽」廃止駅家推定地の写真	9	第23図 草上駅家の写真（3）	39
第4図 草星駅家の位置図	10	第24図 大市駅家の位置図	42
第5図 草星駅家の写真	11	第25図 大市駅家の写真	43
第6図 須磨駅家の位置図	16	第26図 布勢駅家の位置図	44
第7図 須磨駅家の写真	17	第27図 布勢駅家の写真	45
第8図 明石駅家の位置図	20	第28図 高田駅家の位置図	48
第9図 明石駅家の写真	21	第29図 高田駅家の写真	49
第10図 「邑美」駅家の位置図	22	第30図 野磨駅家の位置図	52
第11図 「邑美」駅家の写真	23	第31図 野磨駅家の写真	53
第12図 「邑美」-賀古間古代山陽道の位置図	26	第32図 越部駅家の位置図	54
第13図 「邑美」-賀古間古代山陽道の写真	27	第33図 越部駅家の写真	55
第14図 賀古駅家の位置図	28	第34図 中川駅家の位置図	58
第15図 賀古駅家の写真	29	第35図 中川駅家の写真	59
第16図 佐突駅家の位置図	32	第36図 中川-美作国府間古代美作道・佐用一道 俣間古代因幡道の位置図	60
第17図 佐突駅家の写真	33	第37図 中川-美作国府間古代美作道・佐用一道 俣間古代因幡道の写真	61
第18図 草上駅家の位置図（1）	34		
第19図 草上駅家の写真（1）	35		
第20図 草上駅家の位置図（2）	36		

## 付表目次

付表1 遺物一覧表	64
-----------	----

## 図版目次

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 図版 1 向山遺跡の遺物    | 図版 5 古大内遺跡の瓦（2） |
| 図版 2 辻ヶ内遺跡の遺物   | 図版 6 古大内遺跡の瓦（3） |
| 図版 3 神明寺遺跡の遺物   | 図版 7 野口庵寺の瓦（1）  |
| 図版 4 古大内遺跡の瓦（1） | 図版 8 野口庵寺の瓦（2）  |

## 写真図版目次

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 写真図版 1 向山遺跡・辻ヶ内遺跡の遺物  | 写真図版 4 古大内遺跡の瓦（2） |
| 写真図版 2 辻ヶ内遺跡・神明寺遺跡の遺物 | 写真図版 5 野口庵寺の瓦     |
| 写真図版 3 古大内遺跡の瓦（1）     |                   |

# 第1章 調査研究の契機と経過

## 第1節 調査の趣旨

平成19年10月に開館した兵庫県立考古博物館は、その事業計画の一つの柱として、調査研究を通じて「地域文化の成り立ちを解明し、新たな地域像を創りだすため、総合的・学際的な体制による調査研究を推進し、その成果を発信・活用する」ことを掲げた。そうした目標に沿った調査研究事業の個別研究分野を設定するにあたり、兵庫県全域をエリアとし、県下市町との連携を図りながら進めることができる課題として「兵庫県内における古代官道に関する調査研究」を研究テーマに選定した。

山陽道・山陰道・南海道という3本の主要な古代官道が県内を通る兵庫県にとって、「交通・交流」は地域文化を解くキーワードであり、最もふさわしいテーマであると考えた。特に山陽道は兵庫県内において、浜津地域と播磨地域の広い範囲で明瞭に痕跡を残している。

従来、古代官道や駅家の研究は発掘調査によらない考古学的研究や地理学的研究が中心であったところ、昭和57年度以降のたつの市小丸遺跡の発掘調査で、布勢駅家の実態が明らかになった。その後、上郡町落地遺跡の発掘調査で野原駅家の実態が明らかになり、平成18年に「山陽道野原駅家跡」として史跡に指定された。このように兵庫県における古代官道や駅家の調査・研究は全国をリードしてきた分野である。

こうした好条件に恵まれる一方、山陽道の上記以外の駅家についての実態は明らかでなく、さらに山陰道・南海道の駅家にいたっては、断片的に関連資料が知られているにすぎなかった。そこで、これまで研究されてきた成果の蓄積を活かしながら、古代官道に関する調査研究をすすめることにより、さらなる古代官道・駅家の実態が明らかになると考えられた。

## 第2節 第I期調査について

第I期調査では、県下を通る山陽道・山陰道・南海道という3本の主要な古代官道とその支路を分布調査とともに、関係する各市町教育委員会に取材して、古代官道と駅家推定地の現状把握を行った。古代官道という題材は、県下の各市町と連携を図りながら進める上で格好の研究テーマとなつた。

次いで、実際に調査を行うフィールドとして「賀古駅家」とされる加古川市古大内遺跡と、仮称「邑美駅家」とされる明石市長坂寺遺跡という2箇所の駅家推定地を選定した。両地点は県下の駅家の中で考古博物館に最も近く、調査対象範囲も限定できるという利点が揃っていた。平成19年度には、空中写真測量によって両遺跡の地形図を作成したところ、以前から方形地割の存在が知られていた古大内遺跡に加えて、長坂寺遺跡においても正方位の地割がL字状に認められることが判明した。

平成20年度からは、古代官道の調査を本格的に着手するにあたり、兵庫県内の古代官道の調査と保護活用の方法の検討を目的とした「古代官道調査委員会」を組織し、中山敏史（独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所）、馬場 基（同前）、木本雅康（長崎外国語大学）の3名の学識経験者に委嘱した。平成20・21年度には古大内遺跡と長坂寺遺跡で地中レーダー探査を行い、地下の状況の間接映像を作成した。その情報をもとに、古大内遺跡で平成20年度と平成21年度の2度にわたる確認調査を実施した。その結果、古代山陽道の側溝と、山陽道から「賀古駅家」へ向かう進入路、駅館の築地側溝などを検出し、山陽道に面した東側に駅家の入口を特定するという大きな成果を得た。

調査に対する関心は高く、平成 21 年 3 月 28 日の現地説明会には 378 人、同年 7 月 20 日の現地説明会には 250 人の参加者があった。平成 22 年 3 月 20 日には考古博物館講堂において公開講座「徹底討論・どこまで見えた!? 古代の道と駅家」を開催し、賀古駅家の駅子集落といわれる加古川市坂元遺跡の調査成果を加えた、山陽道の駅家研究の最前線を提示した。

平成 21 年度末には、平成 19 年度から平成 21 年度までの成果をまとめた『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書 I』（兵庫県文化財調査報告第 384 冊）を刊行し、第Ⅰ期の事業を終了した。

### 第 3 節 第Ⅱ期調査について

平成 22 年度から 3 篓年計画で、第Ⅱ期調査を開始した。「古代官道調査委員会」は第Ⅰ期の委員に、坂井秀弥（奈良大学）を加えた 4 名に委嘱した。平成 22 年度の調査は仮称「邑美駅家」と推定される長坂寺遺跡の、遺構の存在や内容を確認するための発掘調査を行った。第 1 回の古代官道調査委員会を平成 23 年 1 月 15 日に開催し、第Ⅱ期調査の方針と、当年度調査の計画を審議した。

発掘調査は平成 23 年 1 月 25 日～3 月 11 日の 28 日間で実施した。調査の結果、駅家に関する遺構について大きな発見があり、3 月 6 日の現地説明会には約 300 名の参加者があった。調査期間中の 3 月 5 日に現地で開催した第 2 回の古代官道調査委員会では、長坂寺遺跡の調査の指導・検討を中心議題とした。その他、次年度以降の調査を見据えて、古代山陽道の痕跡が残るとしている城池地区（加古郡播磨町野添城 2 丁目）付近の 1/500 地形測量図を、平成 19 年度に撮影した空中写真をもとに作成した。

平成 23 年度の調査は、11 月 1 日に開催した第 1 回の古代官道調査委員会で調査の計画を審議した。委員会では、築地痕跡の可能性が指摘されていた A-2 区南辺の農道部分の調査の必要性が強く打ち出された。これにより、農道と南側の畑地についての部分的な調査計画をたてた。

確認調査は平成 24 年 2 月 16 日から 20 日までの 5 日間で、農道を断ち割る確認調査を行った。期間中の 2 月 19 日には第 2 回の委員会を現地にて開催した。内容は長坂寺遺跡の調査の指導・検討および次年度以降の事業計画などが中心議題で、次年度以降の調査方針として、古代官道関連遺跡の対象エリアを現段階ではあまり拡大させずに、まずは播磨の山陽道に絞って実績を積み上げていくという方向性が打ち出された。

また、長坂寺遺跡の出土品整理作業（遺物の洗浄など）を実施した。さらに、次の調査対象として念頭に置いている「大市駅家」（姫路市向山遺跡）付近を起点に、古代山陽道のルートがよく遺存している「布勢駅家」（たつの市小丸遺跡）までの区間について、空中写真撮影を行った。

平成 24 年度は、長坂寺遺跡の出土品の整理作業を行うとともに、次年度以降の第Ⅲ期調査を計画している「大市駅家」に関する、姫路市太市中に所在する向山遺跡の予備調査を実施した。

平成 25 年 1 月 26 日に古代官道調査委員会を開催し、長坂寺遺跡の調査報告書内容の検討と、「兵庫県内における古代官道に関する調査研究」の第Ⅲ期調査の事業計画についての審議を行った。この結果、第Ⅲ期事業として「大市駅家」の本格的な調査を進める事となった。年度末には『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書 II』（兵庫県文化財調査報告第 455 冊）を刊行し、第Ⅱ期の事業を終了した。

### 第 4 節 第Ⅲ期調査について

第Ⅲ期調査は平成 25 年度から 3 篓年計画で、揖保郡の大市駅家を対象に開始した。「古代官道調査委員会」は第Ⅱ期の会長山中敏史が勇退し、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の玉田芳英を

加えた4名に委嘱した。

平成25年度の調査は「大市駅家」付近の駅路の位置が確定していないことから、駅路推定地の調査を行った。分布調査及び地元への聞き取り調査、地籍図・地形図などを経て、山麓を最短距離で結ぶ路線を最有力とみて、推定路線上の休耕田2箇所での確認調査を実施した。確認調査は平成26年2月4日～2月22日の13日間で実施し、2月15日の現地説明会には30名の参加者をえた。当年度の古代官道調査委員会の開催は日程調整がつかず、個別に現地指導をいただいた。

平成26年度の調査は、まず6月15日に開催した第1回の古代官道調査委員会で調査の計画を審議した。委員会では、さらなる古代山陽道駅路の確定と大市駅家本体の調査の必要が説かれた。これにより、本体部分とその北側の駅路推定地部分についての調査計画をたてた。

確認調査は平成26年12月5日～12月25日までの14日間実施し、12月20日の現地説明会には54名の参加者をえた。期間中の12月18日には第2回の委員会を現地にて開催した。当年度までの調査で駅路の路線が判明し、駅館院の位置も推定できたが、駅館院中心部には調査が及んでいないため、発掘調査を1年延長し、調査期間を4箇年とすることとした。

なお、兵庫県立考古博物館特別展「古代官道 山陽道と駅家」（会期：平成26年4月19日～6月22日）と上郡町郷土資料館で開催した兵庫県立考古博物館ふるさと発掘展「古代山陽道と野原駅家」（会期：平成26年9月20日～11月24日）において古代山陽道や駅家調査研究の最新成果を公開した。

平成27年度の調査は、駅館院中心部と推定される部分について確認調査を実施した。調査期間は平成27年10月15日～11月11までの20日間実施し、11月30日には姫路市立太市小学校6年生及び引率者20名の見学があり、11月1日の現地説明会には100名の参加者をえた。11月30日に古代官道調査委員会を開催し、現地指導を得た。調査地点が駅館院である可能性が高まったという評価を得たが、建物配置については不明な点が多いとの指摘を得た。

平成28年度の調査は向山遺跡出土品整理作業及び報告書作成を中心においた。古代官道調査委員会は第1回目を平成28年10月21日、第2回目を平成29年3月10日に開催し、兵庫県を特徴づける遺跡の研究事業として継続することが望ましいと提言いただき、平成30年度は平成19年度に行った県内駅家推定地の分布調査の報告書の作成、第IV期事業として辻ヶ内遺跡（赤穂郡上郡町：高田駅家比定地）を調査対象とする方針を決定した。

年度末には『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書Ⅲ』（兵庫県文化財調査報告第494冊）を刊行し、第Ⅲ期の事業を終了した。

## 第5節 第IV期調査について

第IV期調査は平成29年度から平成34年まで6箇年計画で、辻ヶ内遺跡（赤穂郡上郡町：高田駅家比定地）を対象とする。ただし、平成29年度は平成19年度に実施した分布調査結果の取り纏めを行うこととした。今年度の報告書は山陽道・美作道部分を対象とした。分布調査時採集の遺物の資料化と追加的な分布調査や他機関等が所蔵する駅家関連の遺跡から出土した遺物の調査を行ったうえで、報告書の作成を行った。

追加的な分布調査は、平成19年度調査時に都市化が進んでいることなどから省略された地点（伊丹市・芦屋市・神戸市・佐用町）や新たに関連する遺跡が発見された地点（明石市）などについて実施した。合わせて駅家関連の遺跡から出土した遺物の調査については、願榮寺（上郡町）所蔵神明寺遺跡出

土瓦（平成 29 年 8 月 3 日資料調査）、加古川市教育委員会所蔵古大内遺跡・野口廃寺出土軒瓦（平成 29 年 6 月 23 日・7 月 6 日資料調査、7 月 6 日～9 月 29 日資料借用）、明石市所蔵長坂寺遺跡・大藏中町遺跡出土軒瓦（平成 29 年 7 月 19 日資料調査、8 月 9 日～9 月 29 日資料借用）、上郡町教育委員会所蔵落地遺跡出土軒瓦（平成 29 年 7 月 25 日資料調査、8 月 30 日～9 月 29 日資料借用）について調査を実施した。加古川市教育委員会・明石市・上郡町教育委員会所蔵の瓦については調査に当たり資料の借用を許可いただいた。

報告書作成作業は、学芸課の池田征弘が担当し、遺物の接合・復元、実測及び図面の整理・トレースについては従事する職員として八木和子・森本貴子・柏原美音・佐々木誓子を雇用した。遺物写真の撮影については学芸課岡田章一・池田がを行い、八木が補佐した。

「古代官道調査委員会」は第Ⅲ期の会長坂井秀弥が勇退したことから、平成 29 年度は玉田芳英（独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所）、馬場 基（同前）、木本雅康（長崎外国语大学）の 3 名の学識経験者に委嘱を予定していたが、平成 20 年度より長らく委員を務めていただいている木本氏の急逝により、平成 29 年度は玉田委員・馬場委員の 2 名に委嘱することとなった。委員会は平成 30 年 3 月 2 日に開催し、玉田芳英委員長、馬場 基委員の 2 名の委員と、主管課である県教育委員会文化財室の永恵裕と技術職員、事務局として当館からは平田博幸事業部長・藤田淳学芸課長・深井明比古・山上雅弘・鎌 英記・池田征弘、それにオブザーバーとして上郡町教育委員会教育総務課の島田 拓学芸員が出席した。平成 30 年度の辻ヶ内遺跡（赤穂郡上郡町：高田駅家比定地）の調査は、地形分析を行う上での基礎資料となる圃場整備以前の地形図が存在しないことから、まずは圃場整備以前の空中写真を利用して基盤となす地形図の作成を行い、条里や山陽道の路線・駅家の位置などを検討することと、平成 19 年度分布調査の山陰道・南海道部分の報告書作成と駅家関連遺跡出土遺物との調査については平成 30・31 年度の 2 年間で実施する方針を決定した。

なお、年度末には『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書IV』（兵庫県文化財調査報告第 500 冊）を刊行した。

## 第2章 分布調査の調査成果

### 第1節 分布調査の概要

平成19年10月の開館に際し、兵庫県全域をエリアとし、県下市町との連携を図りながら進めることができる課題として「兵庫県内における古代官道に関する調査研究」を研究テーマに選定した。その冒頭の調査事業として、県内の主要官道である山陽道・美作道・山陰道・南海道およびその支路と、駅家に比定される関連遺跡の分布調査を平成20年3月に実施した。

分布調査の実施においては、古代官道および駅家推定地の踏査を行って現状を把握した。同時に、当該市町教育委員会の担当者に面会して、従前の調査成果や文献資料などについて取材した。その成果は、聴き取り用の調査シートに纏め、今後の調査を進める上での基礎資料として、『兵庫県古代官道調査報告書Ⅰ』で一覧表として公表した。現地で新たな成果が得られたことが多かったわけではないが、「高田駅家」について、従来の比定地とされている上郡町神明寺遺跡とは別地点である高田宿遺跡周辺で奈良時代の瓦を探集し、立地の面からも駅家の新たな候補地を発見することができたことは大きな成果であった。

平成19年の分布調査は兵庫県教育委員会が平成2~8年度に実施した歴史の道調査に次ぐ、全県的に実行された調査であることから、その成果を改めて取りまとめることとした。平成29年度は山陽道及びその支道である美作道・因幡道について、新たに平成19年度調査時に踏査を行っていない箇所の分布調査、平成19年度調査採集遺物の整理、上郡町願榮寺所蔵瓦の調査を行った。

各調査地点の報告については調査シートをもとに編集し、『兵庫県遺跡地図』2011年、明治10~20年代陸地測量部測量の2万分の1地形図（一部5万分の1地形図を拡大）、米軍・国土地理院撮影空中写真（国土地理院400dpiダウンロードデータ）を対照できるように掲載した。

調査後10年を経過していることから、その後調査・研究が進んだ部分も多いが、特に総括的に取りまとめられた下記文献については全体にわたり大いに参考とさせていただいた。

木下 良 2009『事典日本古代の道と駅』

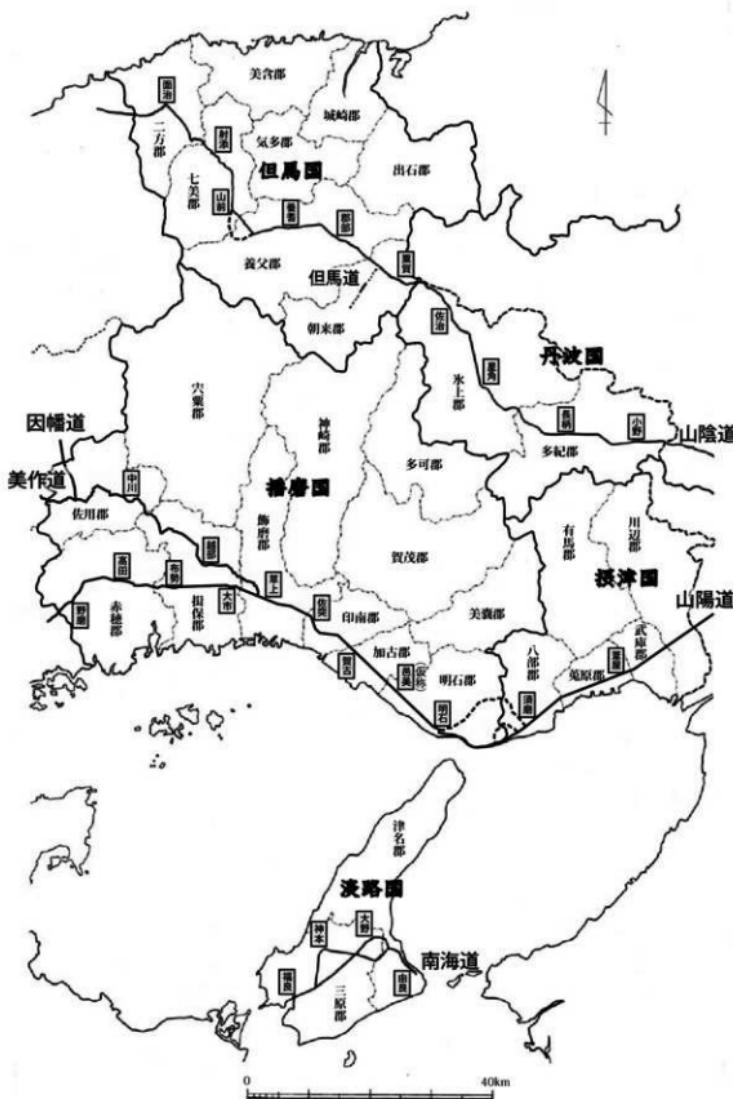
島方洗一ほか編 2009『地図でみる西日本の古代』

第15回播磨考古学研究集会実行委員会 2014『第15回播磨考古学研究集会資料集 播磨の駅家を探る』

第15回播磨考古学研究集会実行委員会 2015『第15回播磨考古学研究集会記録集 播磨の駅家を探る』

### 第2節 山陽道の調査

兵庫県内で山陽道に属する駅家は、延喜式所載の摂津国2駅（菟屋・須磨）、播磨国7駅（明石・賀古、草上・大市・布勢・高田・野原）とその他史料に見える「佐突駅家」、瓦の出土から推定される仮称「邑美駅家」などが認められており、その他に伊丹市の昆陽付近にも駅家の存在が想定されている。その他、道路遺構が検出された地点についても調査を行った。



第1図 兵庫県下の古代官道と駅家

## 1 「昆陽」廃止駅家推定地

1－1 昆陽寺境内遺跡（県遺跡地図番号：080033）〔第2図・第3図〕

**所在地** 伊丹市寺本2丁目他

**調査担当者** 学芸課 主査 池田征弘

**調査日** 平成30年1月12日（遺跡調査番号 2017124）

**所管教育委員会** 伊丹市教育委員会

### 1. 地形・現況

武庫川東岸の台地。寺院境内地・市街地。

### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

昆陽寺西側の旧西国街道は古代山陽道の遺存地割と考えられている。昆陽寺東側に難波宮一有馬連絡路推定路線と推定されている地割りが存在している。

### 3. 遺物の散布状況

確認できなかった。

### 4. 過去の調査実績

古代に関しては昆陽寺境内遺跡第21次調査で9世紀代の須恵器・土師器が出土する土坑が検出されているのみである。

### 5. 文献、地籍図、絵図等

足利健亮 1985「難波京から有馬温泉を指した計画古道」『日本古代地理研究』

足利健亮 1992「山陽道の歴史地理的考察」『山陽道（西国街道』兵庫県教育委員会

伊丹市教育委員会 2008「伊丹市埋蔵文化財調査報告書」伊丹市埋蔵文化財調査報告書第33集

木下 良 2009『事典日本古代の道と駅』

### 6. 所見、その他

現状は市街地となっており、伊丹市域では古代山陽道の遺存地割りはほとんど確認できない。昆陽寺門前付近に古代山陽道の路線が想定されているが、昆陽寺境内遺跡付近は昆陽寺を中心とした南北方位の地割りが施行されている。昆陽寺の西側の国道2号線部分は古代山陽道の遺存地割りと考えられている。昆陽寺の東側の南東から北西にかけて直線的な地割りが見られ、難波宮一有馬連絡路が推定され（足利1985）、山陽道との交点に廃止された駅家が存在した可能性が指摘されている（木下2009）。

## 2 芦屋駅家

2－1 芦屋魔寺（県遺跡地図番号：070033）〔第4図・第5図〕

**所在地** 芦屋市西山町

**調査担当者** 学芸課 主査 中川 渉

**調査日** 平成20年3月10日（遺跡調査番号 2007144）

**所管教育委員会** 芦屋市教育委員会 生涯学習課文化財係 係長 森岡秀人

### 1. 地形・現況

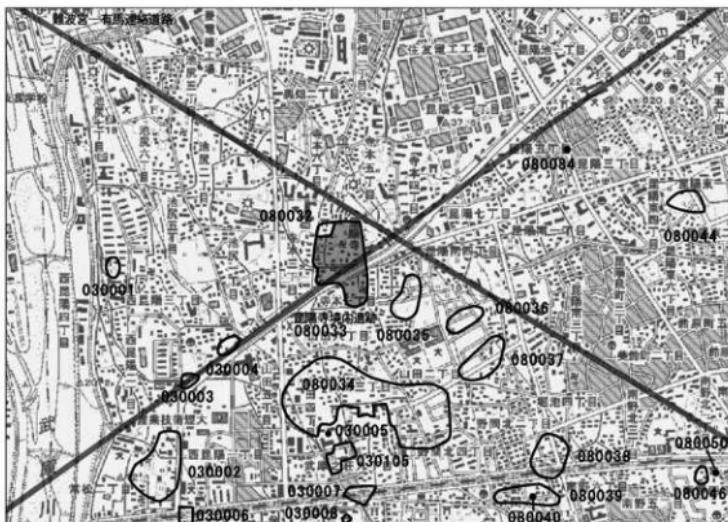
芦屋川右岸の扇状地。市街地。

### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

塔礎石。

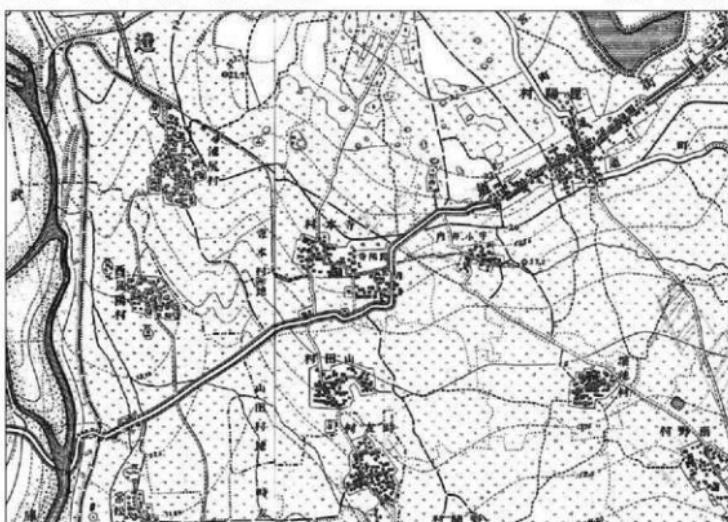
兵庫県遺跡地図 図幅名「昆陽寺」

縮尺：1/20000



図幅名「伊丹町・西宮」 明治 18 年測量

縮尺：1/20000



第2図 「昆陽」廃止駅家推定地の位置図



1 米軍 昭和 23 年撮影 USA-M27-2-41

国土地理院 400dpi データ



2 昆陽寺



3 昆陽寺付近の古代山陽道路線



4 昆陽寺付近の直線道路（北東から）

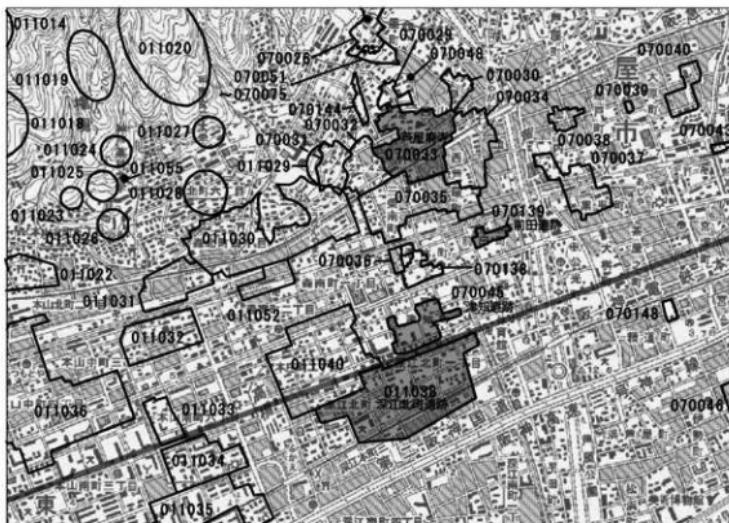


5 昆陽寺付近の直線道路（南東から）

第3図 「昆陽」廢止駅家推定地の写真

## 兵庫県遺跡地図 図幅名「西宮」

縮尺：1/20000



図幅名「西宮町・今津村」 明治 18 年測量

縮尺：1/20000



第4図 葦屋駅家の位置図



1 米軍 昭和 23 年撮影 USA-M18-4-8

国土地理院 400dpi データ



2 西山町周辺（西から）



3 芦屋廢寺跡塔心礎



4 前田町周辺（南から）



5 津知遺跡・深江北町遺跡（南から）

第 5 図 草屋駅家の写真

### 3. 遺物の散布状況

確認できなかった。

### 4. 過去の調査実績

住宅の建て替えなどに伴い、約 90 回の確認調査を実施。

### 5. 文献、地図図、絵図等

芦屋市教育委員会 1970『芦屋廬寺址』芦屋市文化財調査報告 第 7 集

吉本昌弘 1981「摂津国八部・菟原両郡の古代山陽道と条里制」『人文地理』33-4 人文地理学会

足利健亮 1992「山陽道の歴史地理的考察」『山陽道（西国街道）』兵庫県教育委員会

高橋美久二 1995『古代交通の考古地理』

森岡秀人 2002「摂津・八十塚古墳群と菟原郡墓屋郷・賀美郷周辺の古代史」『八十塚古墳群の研究』

関西大学考古学研究室

森岡秀人 2003「5. 考古学と古代史からみた摂津国菟原郡東部の8世紀史と藤ヶ谷古墓の占める位置」

『摂津・藤ヶ谷古墓一藤ヶ谷遺跡第五地点・古代火葬墓の調査一』芦屋市文化財調査報告 第 48 集

森岡秀人 2007a「葦屋駅家と古代山陽道路線諸説をめぐっての一試考」『考古学論究一小笠原好彌先生

退任記念論集一』

森岡秀人 2007b「古代山陽道駅家にみられる西摂津の特質と葦屋駅」『明日をつなぐ道—高橋美久二先生追悼文集一』

森岡秀人 2008「歴史からみた本庄地域 第一章 考古学が語る本庄地区周辺の地域史」『本庄村史 歴史編—神戸市東灘区深江・青木・西青木のあゆみ—』

### 6. 所見、その他

現状は市街地となっており、旧状をうかがい知ることはできない。阪急神戸線から 1 本北側の道に面するあたりが中心で、昭和 42 年調査時の碑が建っている。塔心礎と考えられる礎石は現在、芦屋市立美術博物館に移設保管されている。

古代山陽道の想定ラインには、北から順に以下の 3 説がある。I 森岡説は JR と国道 2 号の間の小字名「前田」・「榜示」、大字界を根拠とする。II 足利説は国道 2 号がほぼ踏襲しているものとする。III 吉本説は国道 2 号と阪神電鉄の中間に、条里地割りの余剰帶を根拠とする。高橋美久仁氏は旧説では芦屋廬寺の付近に駅家を想定していたが、その後明らかとなった津知遺跡・深江北町遺跡の資料を重視し、山陽道のルートも吉本説を支持している。

## 2-2 前田遺跡（県遺跡地図番号：070139）[第 4 図・第 5 図]

所在地 芦屋市前田町

調査担当者 学芸課 主査 池田征弘

調査日 平成 30 年 1 月 12 日（遺跡調査番号 2017124）

所管教育委員会 芦屋市教育委員会

### 1. 地形・現況

芦屋川右岸の扇状地。市街地。

### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

### 3. 遺物の散布状況

市街地のため確認できなかった。

### 4. 過去の調査実績

弥生時代前期の水田跡が検出されているが、古代に関しては建物跡などの明瞭な遺構は検出されていない。

### 5. 文献、地図、絵図等

芦屋市教育委員会 2004『前田公園建設事業に伴う前田遺跡（第 20 地点）発掘調査概要報告書』芦屋市文化財調査報告第 52 集

芦屋市教育委員会 2007『前田遺跡（第 26 地点）発掘調査概要報告書』芦屋市文化財調査報告第 70 集

森岡秀人 2007「葦屋駅家と古代山陽道路線諸説をめぐっての一試考」『考古学論究一小笠原好彦先生退任記念論集一』

森岡秀人 2008「歴史からみた本庄地域 第一章 考古学が語る本庄地区周辺の地域史」『本庄村史 歴史編—神戸市東灘区深江・青木・西青木のあゆみ—』

### 6. 所見、その他

小字「前田」の存在と郡衙推定地の寺田遺跡や芦屋廃寺との位置関係から葦屋駅家の所在地と想定されている。併せて小字「前田」中央部に古代山陽道の路線を想定している（森岡 2007・2008）。

## 2-3 津知遺跡（県遺跡地図番号：070045）〔第4図・第5図〕

所在地 芦屋市津知町・川西町

調査担当者 学芸課 主査 池田征弘

調査日 平成 30 年 1 月 12 日（遺跡調査番号 2017124）

所管教育委員会 芦屋市教育委員会

### 1. 地形・現況

芦屋川西岸の扇状地。市街地。

### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

### 3. 遺物の散布状況

市街地のため確認できなかった。

### 4. 過去の調査実績

第 2 地点で大型掘立柱建物跡が検出され、墨書き器・円面鏡・縄文陶器・瓦・皇朝十二錢などが出土している。この第 2 地点以外には明確な建物跡は検出されていない（竹村 2003）。

### 5. 文献、地図、絵図等

阿部嗣次 1993a「津知遺跡の発掘調査（1）」『のじぎく文化財だより』17 淡神文化協会

阿部嗣次 1993b「津知遺跡の発掘調査（2）」『のじぎく文化財だより』18 淡神文化協会

芦屋市教育委員会 1999『津知遺跡第 17 地点発掘調査概要報告書』芦屋市文化財調査報告第 34 集

芦屋市教育委員会 2003『津知遺跡第 142 地点ほか発掘調査概要報告書』芦屋市文化財調査報告第 46 集

竹村忠洋 2003「時代・時期別にみた津知遺跡における発掘調査」『津知遺跡第 142 地点ほか発掘調査

概要報告書』芦屋市文化財調査報告第 46 集

芦屋市教育委員会 2004 『津知遺跡第 198・222 地点発掘調査概要報告書』芦屋市文化財調査報告第 55

集

6. 所見、その他

吉本説の古代山陽道路線に北接する位置で大型掘立柱建物跡などが検出されていることから革屋駅家の有力候補地のひとつと考えられている。

2-4 深江北町遺跡（県遺跡地図番号：011038）〔第4図・第5図〕

所在地 神戸市東灘区深江北町 1～3 丁目、深江本町 1、2 丁目、本庄町 1 丁目

調査担当者 学芸課 主査 池田征弘

調査日 平成 30 年 1 月 12 日（遺跡調査番号 2017124）

所管教育委員会 神戸市教育委員会

1. 地形・現況

浜堤。市街地。

2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

3. 遺物の散布状況

市街地のため確認できなかった。

4. 過去の調査実績

第 8 次調査で池状遺構から墨書き土器・転用硯・施釉陶器・瓦などが出土している。墨書き土器には「驛」「官」などの文字が見られる。

第 9 次調査で掘立柱建物跡・道路状遺構が検出され、木簡・墨書き土器・円面硯・施釉陶器・瓦などが出土している。墨書き土器には「驛」「馬戸」「大垣」などの文字が見られる。

第 12・14 次調査では浜堤上で堅穴住居跡・掘立柱建物跡が検出され、湿地から「天平十口年」や「駅長」と記された木簡、浜堤や湿地から「驛」・「大垣」・「大垣官」・「三宅」・「津」と記された墨書き土器が出土している。

5. 文献、地図、絵図等

神戸市教育委員会 2002 『平成 11 年度神戸市埋蔵文化財年報』

神戸市教育委員会 2002 『深江北町遺跡第 9 次埋蔵文化財発掘調査報告書』

神戸市教育委員会 2014 『深江北町遺跡第 12・14 次埋蔵文化財発掘調査報告書』

神戸市教育委員会文化財課 2016 『発掘！古代のお役所』

6. 所見、その他

官衙的な出土遺物が多数出土し、そのなかに「駅長」木簡や「驛」墨書き土器を含むことから駅家に関連する施設であると考えられ、近隣に駅館が存在することが想定される。

3 須磨駅家

3-1 大田町遺跡（県遺跡地図番号：017028）〔第6図・第7図〕

所在地 神戸市須磨区大田町、戎町

**調査担当者** 学芸課 主査 池田征弘  
**調査日** 平成 30 年 2 月 9 日 (遺跡調査番号 2017125)  
**所管教育委員会** 神戸市教育委員会

#### 1. 地形・現況

妙法寺川東岸の自然堤防上。市街地。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

妙法寺川より東側に条里的余剰帯が存在するとされる。

#### 3. 遺物の散布状況

市街地のため確認できなかった。

#### 4. 過去の調査実績

第2次調査では8~10世紀の掘立柱建物跡・溝・土器つまりなどが検出され、施釉陶器・皇朝十二錢、鍍金金属製品などが出土している。施釉陶器の出土量が極めて多い。

第3次調査では8~10世紀の掘立柱建物跡・井戸・溝などが検出され、施釉陶器・円面鏡などが出土している。円面鏡には「荒田郡中富里」などの刻書がなされている。

第5次の各調査区から掘立柱建物跡・井戸・溝などが検出され、施釉陶器・墨書き土器・瓦・皇朝十二錢などが出土している。時期は9世紀代が中心である。

いずれの調査区の南端部で、東西方向の溝もしくは溝の北肩とみられる遺構が検出されており、古代山陽道の北側溝と考えられている。

#### 5. 文献、地図、絵図等

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1993『大田町遺跡発掘調査報告書』兵庫県文化財調査報告第 128 冊  
神戸市教育委員会 1994『平成 3 年度神戸市埋蔵文化財年報』  
神戸市教育委員会 1997『平成 6 年度神戸市埋蔵文化財年報』

#### 6. 所見、その他

官衙の施設や官人の居住地の性格が考えられる遺跡である。古代山陽道に北接し、摂播国境の海浜部を迂回する伊川谷ルートや多井畑ルートの分岐点と近いことから「須磨駅家」の候補地とされている。

### 3-2 天神町遺跡 (県遺跡地図番号: 017033) [第6図・第7図]

**所在地** 神戸市須磨区天神町  
**調査担当者** 学芸課 主査 池田征弘  
**調査日** 平成 30 年 2 月 9 日 (遺跡調査番号 2017125)  
**所管教育委員会** 神戸市教育委員会

#### 1. 地形・現況

千森川の扇状地上。市街地。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

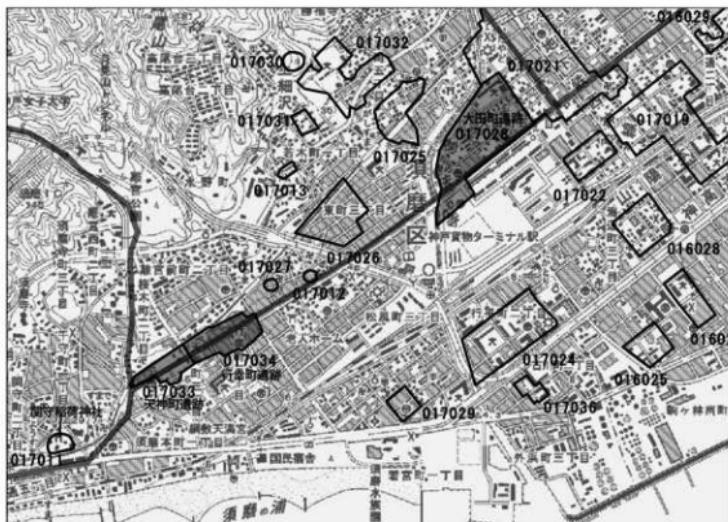
なし。

#### 3. 遺物の散布状況

市街地のため確認できなかった。

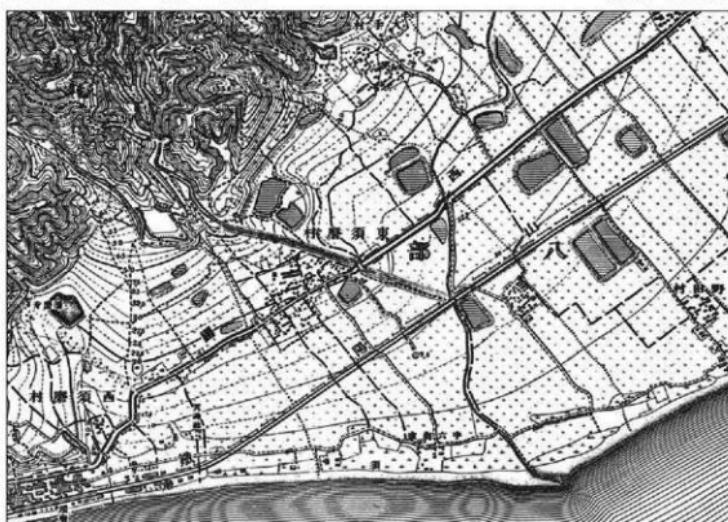
兵庫県遺跡地図 図幅名「須磨・神戸南部」

縮尺：1/20000



図幅名「須磨村」 明治 18 年測量

縮尺：1/20000



第6図 須磨駅家の位置図



1 米軍 昭和 21 年撮影 USA-M324-A-6-114

国土地理院 400dpi データ



2 大田町遺跡（東から）



3 大田町遺跡（西から）



4 天神町遺跡（東から）



5 関守稻荷神社内の道標

第 7 図 須磨駅家の写真

#### 4. 過去の調査実績

第2次調査で古代の構造は検出されていないが、古大内式軒丸瓦が出土している。東隣の行幸町遺跡(017034)では流路から銅製帶金具が出土している。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

神戸市教育委員会 2001『平成10年度神戸市埋蔵文化財年報』

神戸市教育委員会 2003『平成12年度神戸市埋蔵文化財年報』

#### 6. 所見、その他

平安期以降の和歌などの文学作品で取り上げられる「須磨駅」の伝承地であることから、「須磨駅家」の候補地のひとつである。多井畠ルートへの分岐点付近でもある。近年は大田町遺跡付近が「須磨駅家」の候補地として有力であるが、播磨国府系瓦の古大内式軒丸瓦が出土や銅製帶金具が出土していることは注目される。

### 4 明石駅家

#### 4-1 太寺廃寺 (県遺跡地図番号: 040200) [第8図・第9図]

所在地 明石市太寺町2丁目

調査担当者 学芸課 主査 中川 涉

調査日 平成20年3月7日 (遺跡調査番号 2007145)

所管教育委員会 明石市教育委員会 社会教育推進室 社会教育推進課文化財係 係長 稲原昭嘉

#### 1. 地形・現況

明石城上ノ丸から東へ続く、段丘面上。寺院(高家寺)、住宅地、畑地。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

高家寺境内に塔基壇。基壇上に塔心礎、礎石。看板の説明では、心礎が以前、手水鉢に使われていたとされているが、現在は基壇上に置かれている。平成9年度の調査時には、すでに基壇上にあった。礎石のうち、基壇東寄りの3石は、原位置を保っているものとみられる。

#### 3. 遺物の散布状況

かつて瓦が採集されている。

#### 4. 過去の調査実績

調査は多数行われている。

平成14年度に高家寺の北側を調査。創建時の掘立柱建物・炉跡などを検出。

平成15年度に高家寺本堂周辺を調査。僧坊とみられる掘立柱建物を検出。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

明石市教育委員会 1985『明石市史資料(考古篇)第四集』

明石市教育委員会 1999『明石市文化財年報 平成9年度』

明石市立文化博物館 2001『発掘された明石の歴史展 ~まちに眠る古代の姿~』

明石市立文化博物館 2004『発掘された明石の歴史展 太寺廃寺と高家寺』

昭和32年 1/3,000 現況図

#### 6. 所見、その他

太寺廃寺は7世紀中葉の創建で、塔をもつところから、寺であることは確実。道路区画などから、方

形プランが想定されている。

駅家が太寺周辺にあるとすれば、西側の「菅公旅次遺跡」石碑がある伝承地か、北西側の天王神社周辺が候補地とされるが、証拠は全くない。「高家寺」の「こうけ」から、「郡家」が存在したという説もあり。風土記の逸文にある「駒手の御井」に関する遺跡も不明である。

明石駅家以東の山陽道のルートも、伊川谷説・海沿い説あるが、はつきりしない。明石城武家屋敷跡の東仲ノ町で、律令期の道路跡と古大内式軒丸瓦が、天文町で本町式軒平瓦が出土しており、海沿いのルートも存在した可能性がある。

#### 4－2 大蔵中町遺跡（県遺跡地図番号：040320）【第8図・第9図】

所在地 明石市大蔵中町

調査担当者 学芸課 主査 池田征弘

調査日 平成30年2月9日（遺跡調査番号 2017125）

所管教育委員会 明石市文化スポーツ部

##### 1. 地形・現況

段丘崖下の沖積地。市街地。

##### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

##### 3. 遺物の散布状況

市街地のため確認できない。

##### 4. 過去の調査実績

瓦積みの井戸が5基検出されている。使用されている瓦は7世紀後半以降鎌倉時代に及ぶもので、15世紀に埋没したものもある。出土した瓦には播磨国府系瓦のうち古大内式軒丸瓦・軒平瓦、本町式軒平瓦、毘沙門式系軒平瓦が含まれている。

##### 5. 文獻、地図図、絵図等

明石市文化・スポーツ部文化振興課 2015『大蔵中町遺跡』明石市文化財調査報告第5冊

発掘された明石の歴史展実行委員会 2013『明石の古代』

##### 6. 所見、その他

出土した瓦に播磨国府系瓦が多く含まれている。古代の遺構から出土したものではないので、直接明石駅家の所在を示すものではないが、特に出土数量から古大内式軒丸瓦と本町式軒平瓦が組み合わせになることは、野原駅家推定地の落地遺跡と同様である。この瓦の本来使用された施設が駅家である可能性は濃厚で、その探索が望まれる。

#### 5 「邑美」駅家

##### 5－1 長坂寺遺跡（県遺跡地図番号：040038）【第10図・第11図】

所在地 明石市太寺町2丁目

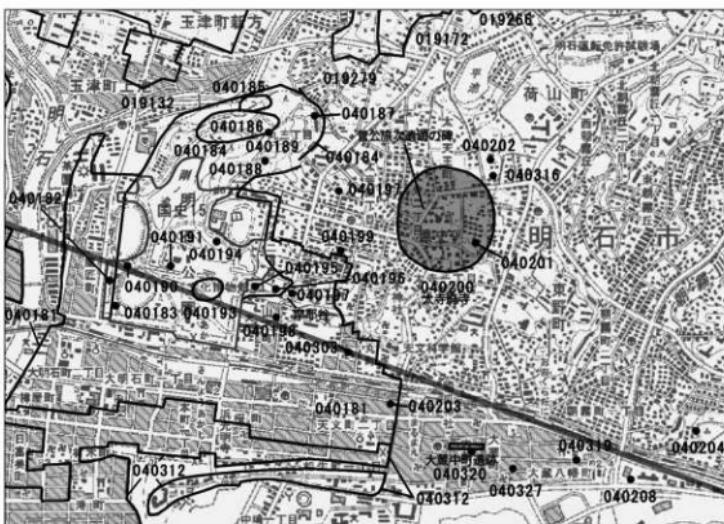
調査担当者 学芸課 主査 池田征弘

調査日 平成20年3月4日・3月7日（遺跡調査番号 2007145）

所管教育委員会 明石市教育委員会 社会教育推進室 社会教育推進課文化財係 係長 稲原昭嘉

兵庫県遺跡地図 図幅名「明石」

縮尺：1/20000



図幅名「明石」 明治 19 年測量

縮尺：1/20000



第8図 明石駅家の位置図



1 国土地理院 昭和 36 年撮影 MKK611-C16-182

国土地理院 400dpi データ



2 太寺廃寺塔跡



3 管公旅次遺跡



4 大蔵中町遺跡（西から）

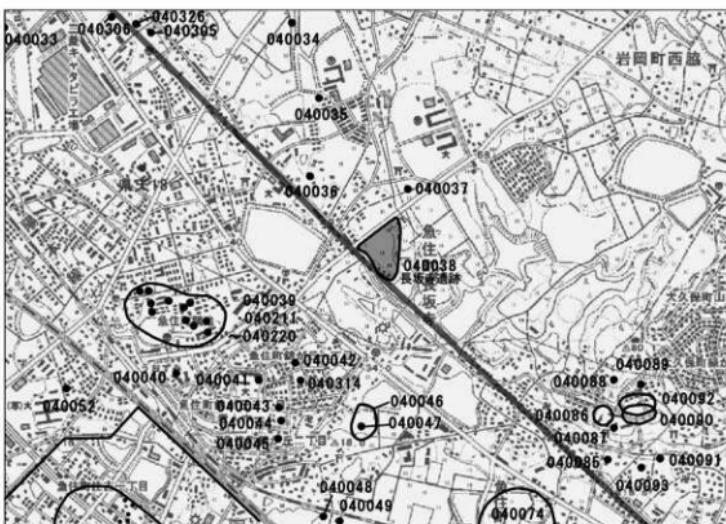


5 摩耶谷（南から）

第9図 明石駅家の写真

兵庫県遺跡地図 図幅名「東二見」

縮尺：1/20000



図幅名「大久保町」 明治 19 年測量

縮尺：1/20000



第 10 図 「邑美」駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R521-6-6

国土地理院 400dpi データ



2 長坂寺遺跡（北西から）



3 瓦出土地



4 県道交差点から北西を望む



5 県道交差点から南東を望む

第 11 図 「邑美」駅家の写真

## 1. 地形・現況

段丘上から東側の大道池へ向かう緩斜面。宅地と水田・畑地。近隣個人宅の庭に、標柱。

## 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

現市道が、古代山陽道想定ラインにほぼ沿っている。

## 3. 遺物の散布状況

水田部に、瓦片が散布。長谷川太郎氏の敷地内で採集された瓦当が、明石文化博物館に展示されている。

## 4. 過去の調査実績

なし。

## 5. 文献、地図、絵図等

明石市教育委員会 1985『明石市史資料（考古篇）第四集』

明石市教育委員会・同志社大学考古学研究室 1987『明石市域の遺跡詳細分布調査（I）—1984・1985年度の調査—I』

## 6. 所見、その他

採集されている瓦は焼成が不良で、他に須恵器・土師器を顕著に伴っていないため、窯跡の可能性も考えられる。

## 7. 補足

兵庫県立考古博物館による古代官道調査の第Ⅱ期調査として平成22・23年度に確認調査を実施した。その結果、南辺と西辺の築地塀とみられる遺構が検出され、築地塀の側溝から大量の瓦と8世紀中頃の須恵器が出土した。このことにより駅家の駅館院の存在をほぼ裏付けることができた。掘立柱建物跡は築地以前の遺構で、古代山陽道とほぼ同じ方位をとることから、落地遺跡と同様に初期駅家の存在が想定される。

兵庫県立考古博物館 2013『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第455冊

## 6 「邑美」－賀古間古代山陽道

### 6-1 古代山陽道福里地点（県遺跡地図番号：040304）【第12図・第13図】

所在地 明石市二見町福里

調査担当者 学芸課 主査 中川 渉

調査日 平成20年3月7日（遺跡調査番号 2007145）

所管教育委員会 明石市教育委員会 社会教育推進室 社会教育推進課文化財係 係長 稲原昭嘉

## 1. 地形・現況

清水川右岸段丘上。稗沢池東側の水田（現在は住宅地）。

## 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

稗沢池を東西に横切る土堤。

## 3. 遺物の散布状況

確認できなかった。

## 4. 過去の調査実績

平成13年度に、宅地開発に伴う発掘調査。古代山陽道の道路側溝とみられる溝3本が検出されている。

溝間の幅は、南側の溝から測って、10mと15mである。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

明石市教育委員会 2003 「古代山陽道路跡福里地点」『平成13年度明石市埋蔵文化財年報』

明石市教育委員会 2008 「古代山陽道路跡辻ヶ内地点」『平成15年度明石市埋蔵文化財年報』

#### 6. 所見、その他

古代山陽道想定ラインに沿って、複数の溝と、8～9世紀代の瓦片を含む遺物が出土しているところから、古代山陽道の道路側溝に間違いのないものとみられる。

検出した3本の溝のうち、最も南側の溝が、調査区西側の稗沢池を東西に横切る土堤の南側のラインと一致している。この溝と、北側2本の溝との間隔は、10m、15mで、遺物の出土状況からみて、当初15mの幅であったのが、8世紀後半で10mに縮小した可能性が指摘されている。

周辺では魚住町清水字辻ヶ内地点（県遺跡地図番号：040305）においても、古代山陽道の道路側溝とみられる2本の溝が検出されている。溝間の幅は約8mで、道路面の凹地は砂利を入れて整地している。段丘崖の上端に南側の溝が走り、南側の溝を道路の基準線とするのは、福里地点と同様である。瓦片・須恵器片が出土している。

### 7 賀古駅家

#### 7-1 古大内遺跡（県遺跡地図番号：110220）〔第14図・第15図〕

所在地 加古川市野口町古大内

調査担当者 学芸課 課長 大平 茂、主査 中川 渉、主査 多賀茂治

調査日 平成19年12月7日、平成20年1月8日、2月19日（遺跡調査番号2007146）

所管教育委員会 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター 所長 岡本一士

#### 1. 地形・現況

段丘。神社、宅地、駐車場、畑地。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

礎石。

#### 3. 遺物の散布状況

大歳神社境内に、瓦片散布。

#### 4. 過去の調査実績

大歳神社境内東側の住宅建て替えに伴い確認調査が実施されているが、遺構は検出されていない。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

鎌谷木三次 1942 『播磨上代寺院跡の研究』

今里幾次 1989 「賀古駅家と古代の駅制」『加古川市史』第1巻

今里幾次 1996 「賀古駅家跡（古大内遺跡）」『加古川市史』第4巻

#### 6. 所見、その他

国道2号の南側に「駅ヶ池」という細長い池が南東-北西方向に延びており、「ウマヤガイケ」「マヤイケ」といった遺称がある。池の南にはかつて「塙の森」と呼ばれる高まりがあり、こんもりとした森であったという。同地は中世には城郭（古大内城跡）となつており、現在は宅地や駐車場の部分が多く、遺存状況はよくない。それでも約80m四方の正方位の土地区画を観察することができる。80m四方の区

兵庫県遺跡地図 図幅名「東二見」

縮尺：1/20000



図幅名「大久保町・二見村」 明治 19 年・明治 26 年測量

縮尺：1/20000



第 12 図 「邑美」-賀古間古代山陽道の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R521-6-10

国土地理院 400dpi データ



2 古代山陽道跡辻ヶ内遺跡地点（西から）



3 濑戸川東岸の古代山陽道路線（西から）



4 古代山陽道跡福里地点（東から）

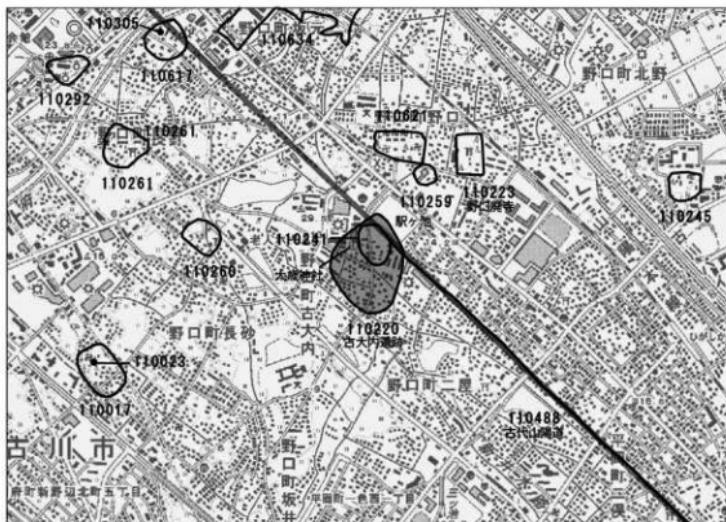


5 稲沢池の土堤（南東から）

第 13 図 「邑美」一賀古間古山陽道の写真

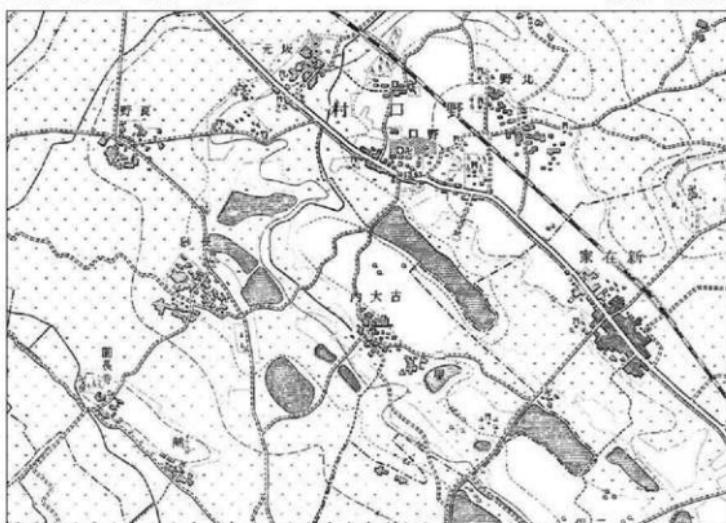
兵庫県遺跡地図 図幅名「加古川・高砂」

縮尺：1/20000



図幅名「高砂」 明治 26 年測量

縮尺：1/20000



第14図 賀古駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R521-6-14

国土地理院 400dpi データ



2 大歳神社境内（南から）



3 市道脇の駐車場（南から）



4 駅ヶ池（南西から）



5 古大内遺跡より西側の古代山陽道推定ライン  
(南東から)

第 15 図 賀古駅家の写真

画が小犬丸遺跡と同規模である点は興味深い。

大歳神社境内には礎石とみられる石材が散在している。境内に立つ「古大内城跡」の石碑の土台にもそれらの石材が転用されている。境内およびその周辺で、播磨国府系瓦や鬼瓦などが採集されている。現在も境内などに瓦の小片が散布。ただし市教委によると、かつて野口神社より野口廃寺の瓦を捨てに来たこと也有ったという伝聞もあり、注意が必要である。境内の西側は古大内城跡の堀跡が荒れた崖地になっており、堀の痕跡の延長を集落の中にたどることができる。

駅ヶ池は現状で東半分が埋め立てられて住宅地となり、護岸はコンクリート貼りとなっている。池の南側から北西にかけての水路沿いが山陽道推定ラインであるが、改修されていて旧状はとどめない。

#### 7. 補足

兵庫県立考古博物館による古代官道調査の第1期調査として平成20・21年度に確認調査を実施した。その結果、東辺の築地塀の東側溝、山陽道の南側溝、山陽道からの進入路の側溝とみられる遺構が検出された。また、大歳神社境内に所在する礎石とみられる石材のうち、2点は門扉を受ける唐居敷であることが判明した。

兵庫県立考古博物館 2010『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書Ⅰ』兵庫県文化財調査報告第384冊

### 8 佐突駅家

#### 8-1 北宿遺跡（県遺跡地図番号：020568）〔第16図・第17図〕

所在地 姫路市別所町北宿

調査担当者 調査第2班 主査 西口圭介・主査 鐵 英記

調査日 平成20年3月26日（遺跡調査番号2007147）

所管教育委員会 姫路市教育委員会 文化財課 大谷輝彦

#### 1. 地形・現況

会社用地（播州倉庫）、公園、宅地となっている。なお、播州倉庫前には地元自治会建立の「佐突駅跡」という石碑がある。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

#### 3. 遺物の散布状況

遺跡範囲より北側で遺物の散布が認められる。

#### 4. 過去の調査実績

下水道工事に伴う調査が行われている。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

鎌谷木三次 1942『播磨上代寺院跡の研究』

兵庫県教育委員会 1992『山陽道（西国街道）』

姫路市教育委員会 2000『TSUBOHORI 平成11年度』

今里幾次 2010『佐突駅家跡』『姫路市史』第7巻下史料編考古 姫路市

#### 6. 所見、その他

駅家の遺構は過去の開発によって亡失したとされている。播州倉庫と白陵高校の間で遺物の散布が認められ、「馬ヶ谷」等の字名も現在の「北宿遺跡」範囲外にあるので、遺跡の範囲が北から東方向に広が

り、駅家そのものが現在の推定箇所よりも北ないし北東になる可能性がある。

## 9 草上駅家

### 9-1 本町遺跡（県遺跡地図番号：020465）〔第18図・第19図〕

所在地 姫路市總社本町

調査担当者 調査第2班 主査 西口圭介・主査 鐘 英記

調査日 平成20年3月26日（遺跡調査番号2007147）

所管教育委員会 姫路市教育委員会 文化財課 大谷輝彦

#### 1. 地形・現況

現在は市街化が進み、姫路警察署、JP姫路郵便局、播磨国総社、住宅街となっている。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

#### 3. 遺物の散布状況

なし。

#### 4. 過去の調査実績

姫路郵便局建替に際してなど、発掘調査は多数行われている。

#### 5. 文献、地図、絵図等

姫路市教育委員会 1984『本町遺跡』

兵庫県教育委員会 1992『山陽道（西国街道）』

#### 6. 所見、その他

本町遺跡は播磨国衙関連遺跡であるが、駅家の存否を確認することは困難である。

#### 7. 補足

本町遺跡の主な調査成果については山本博通ほか 2010「播磨国府跡」『姫路市史』第7巻下史料編考古にまとめられている。

### 9-2 今宿丁田遺跡（県遺跡地図番号：020165）〔第20図・第21図〕

所在地 姫路市今宿1丁目～4丁目

調査担当者 調査第2班 主査 西口圭介・主査 鐘 英記

調査日 平成20年3月26日（遺跡調査番号2007147）

所管教育委員会 姫路市教育委員会 文化財課 大谷輝彦

#### 1. 地形・現況

市街地。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

#### 3. 遺物の散布状況

かろうじて残された焼て須恵器の散布を確認した。

#### 4. 過去の調査実績

姫路市教育委員会によって8次にわたる調査が行われている。

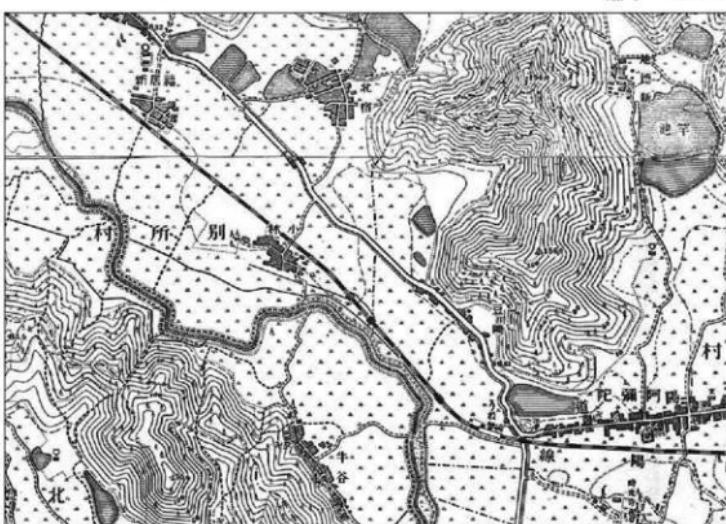
兵庫県遺跡地図 図幅名「加古川」

縮尺：1/20000



図幅名「御着・曾根」 明治 26 年測量

縮尺：1/20000



第16図 佐窓駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R521-6-23

国土地理院 400dpi テーラ



2 北宿遺跡（南東から）

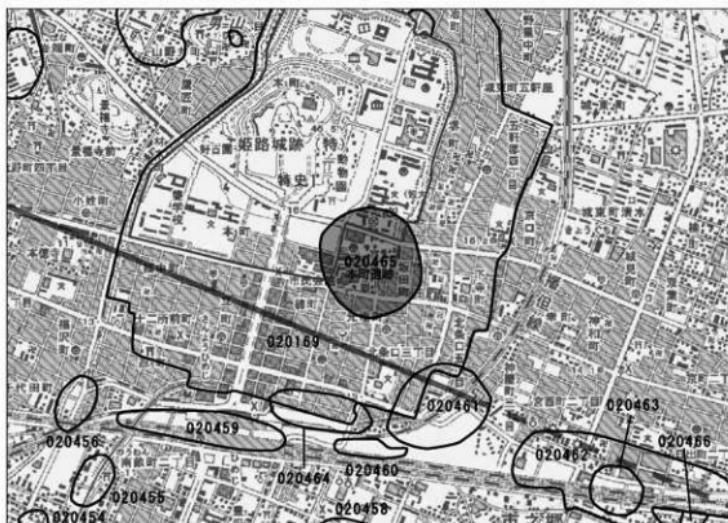


3 北宿遺跡隣接地：播州倉庫北側（南西から）

第 17 図 佐突駅家の写真

兵庫県遺跡地図 図幅名「姫路北部・姫路南部」

縮尺：1/20000



図幅名「姫路・御着」 明治 26 年測量

縮尺：1/20000



第18図 草上駅家の位置図（1）



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R521-6-28

国土地理院 400dpi データ



2 本町遺跡近景（北西から）



3 射楯兵主神社（南から）

第 19 図 草上駅家の写真（1）

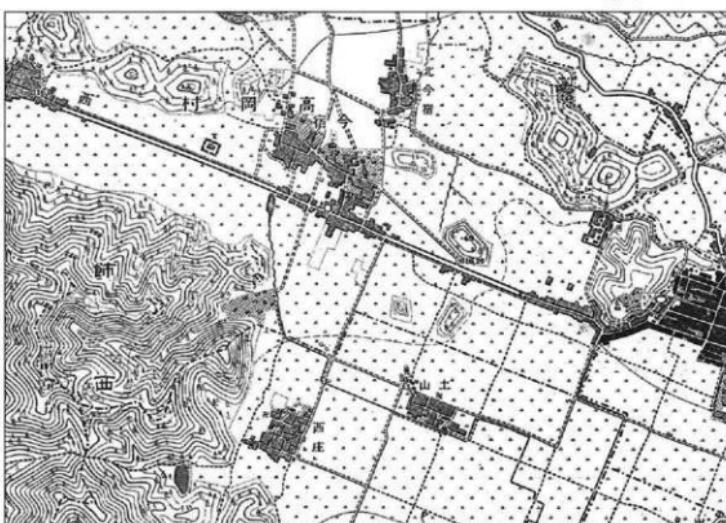
兵庫県遺跡地図 図幅名「姫路北部・姫路南部」

縮尺：1/20000



図幅名「姫路」 明治 26 年測量

縮尺：1/20000



第 20 図 草上駅家の位置図（2）



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R515-5-17

国土地理院 400dpi データ



2 今宿丁田遺跡近景（北から）



3 今宿丁田遺跡遺物散布地点（北から）

第 21 図 草上駅家の写真（2）

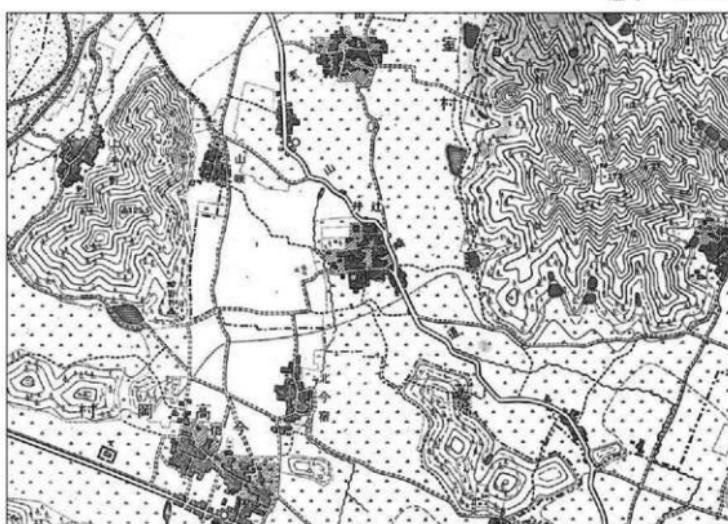
兵庫県遺跡地図 図幅名「姫路北部」

縮尺：1/20000



図幅名「姫路」 明治 26 年測量

縮尺：1/20000



第22図 莠上駅家の位置図（3）



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R522-3-3

国土地理院 400dpi データ



2 辻井遺跡（南東から）



3 辻井遺跡 心礎遠景（北から）

第 23 図 草上駅家の写真（3）

## 5. 文献、地図、絵図等

兵庫県教育委員会 1992『山陽道（西国街道）』

姫路市教育委員会 2002『TSUBOHORI 平成 12 年度』

今里幾次 2010「草上駅家跡」『姫路市史』第 7 卷下史料編考古 姫路市

## 6. 所見、その他

国府系瓦の出土は報告されているが、地形の状況から見て旧河道によって運ばれた遺物が堆積している場合が多く、駅家本体ではないと考えられる。駅家本体は今宿丁田遺跡と今宿遺跡の間に位置する可能性がある。

## 7. 補足

1990 年度の旧河道上層出土の遺物の出土状況・摩滅程度から近傍に原遺構の存在が想定されている（今里 2010）。草上駅家の所在地として最も有力視されている。

## 9-3 辻井遺跡（県遺跡地図番号：020162）〔第 22 図・第 23 図〕

所在地 姫路市辻井

調査担当者 調査第 2 班 主査 西口圭介・主査 鐘 英記

調査日 平成 20 年 3 月 26 日（遺跡調査番号 2007147）

所管教育委員会 姫路市教育委員会 文化財課 大谷輝彦

### 1. 地形・現況

一部、田畠が残るもの、周辺は市街化が進んでいる。

### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

辻井廃寺の心礎が水田の中に残っている。

### 3. 遺物の散布状況

水田には古代の土器が散布している。

### 4. 過去の調査実績

1970 年代以来、主に姫路市教育委員会によって 26 次の調査が重ねられている。

## 5. 文献、地図、絵図等

今里幾次 1971『姫路市辻井遺跡－その調査記録』

姫路市教育委員会 1971『辻井遺跡発掘調査報告書』

兵庫県教育委員会 1985・1986・1987・1988『兵庫県年報昭和 57 年度・昭和 58 年度・昭和 59 年度・

昭和 60 年度』

兵庫県教育委員会 1992『山陽道（西国街道）』

姫路市教育委員会 1996・1997・1999・2002『TSUBOHORI 平成 6 年度・平成 7 年度・平成 9 年度・平成

12 年度』

大谷輝彦・今里幾次 2010「辻井廃寺」『姫路市史』第 7 卷下史料編考古 姫路市

## 6. 所見、その他

寺跡が存在することは明白であるが、駅家の存否を確認することは困難である。

## 10 大市駅家

10-1 向山遺跡（県遺跡地図番号：020085）〔第24図・第25図、図版1、写真図版1〕

所在地 姫路市西脇

調査担当者 調査第2班 主査 西口圭介・主査 鐘 英記

調査日 平成20年3月26日（遺跡調査番号2007147）

所管教育委員会 姫路市教育委員会 文化財課 大谷輝彦

### 1. 地形・現況

現状は段々畠や竹林、溜め池などになり、一部墓地も営まれている。

### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

### 3. 遺物の散布状況

遺跡範囲の南西隅にあたる溜め池周辺で、古代の平瓦と少量の丸瓦、須恵器などが散布している。

比較的良好な個体は平瓦のみで、凹面のタタキ目が縄目で、縄目の間隔が広いもの（1）と狭いもの（2）ある。

### 4. 過去の調査実績

市道改修に伴う調査を姫路市教育委員会が実施している。

### 5. 文献、地図、絵図等

兵庫県教育委員会 1992『山陽道（西国街道）』

姫路市教育委員会 2002・2003『TSUBOHORI 平成12年度・平成13年度』

今里幾次 2010「大市駅家跡」『姫路市史』第7巻下史料編考古 姫路市

### 6. 所見、その他

姫路市内の駅家推定地の中では遺構が最も残っている可能性があるが、駅家本体が向山遺跡の東半ではなく南西になるととも考えられ、その場合、かなり削平を受けていると思われる。

### 7. 補足

兵庫県立考古博物館による古代官道調査の第III期調査として平成25～27年度に確認調査を実施した。その結果、駅館院とみられる部分で溝、柱穴、土坑を検出した。土地の削平が著しく、遺構からその内部構造を推定することは難しいが、現地に落とし込まれた礎石石材の残欠や瓦の出土量から考えて、調査地点が駅館院のうちに存在すると判断される。駅館院とみられる部分の北側では、古代山陽道の南側溝とみられる遺構を検出した。「旗ノ山」の北端の山裾と「向山」の北端の山裾を通るライン上に位置し、足利健亮氏が推定した路線に合致している。

兵庫県立考古博物館 2017『兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書III』兵庫県文化財調査報告第494冊

## 11 布勢駅家

11-1 小犬丸遺跡（県遺跡地図番号：120529）〔第26図・第27図〕

所在地 たつの市揖西町小犬丸

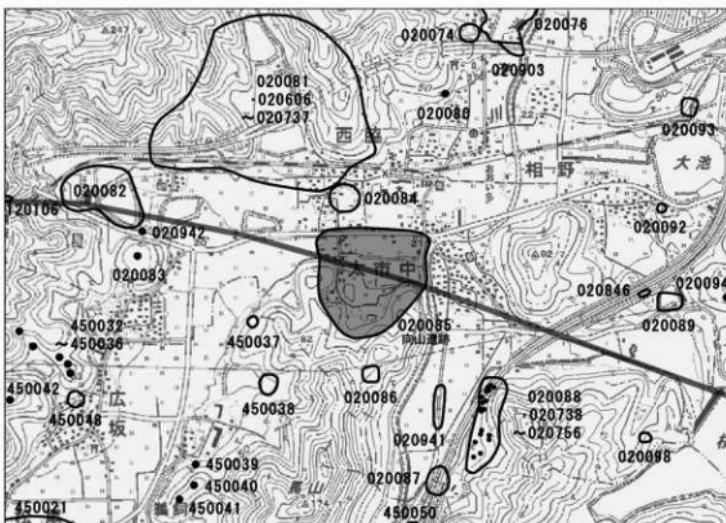
調査担当者 調査第2班 主査 西口圭介・主査 篠宮 正

調査日 平成20年3月25日（遺跡調査番号2007148）

所管教育委員会 たつの市教育委員会 教育事業部 社会教育課 文化財係 副主幹 岸本道昭

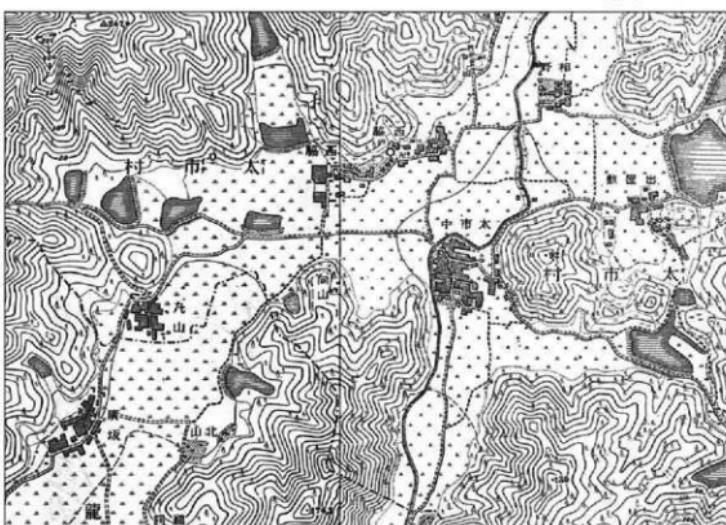
兵庫県遺跡地図 図幅名「龍野」

縮尺：1/20000



図幅名「龍野・姫路」 明治 28 年・明治 26 年測量

縮尺：1/20000



第24図 大市駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R515-5-11

国土地理院 400dpi データ



2 向山遺跡（東から）

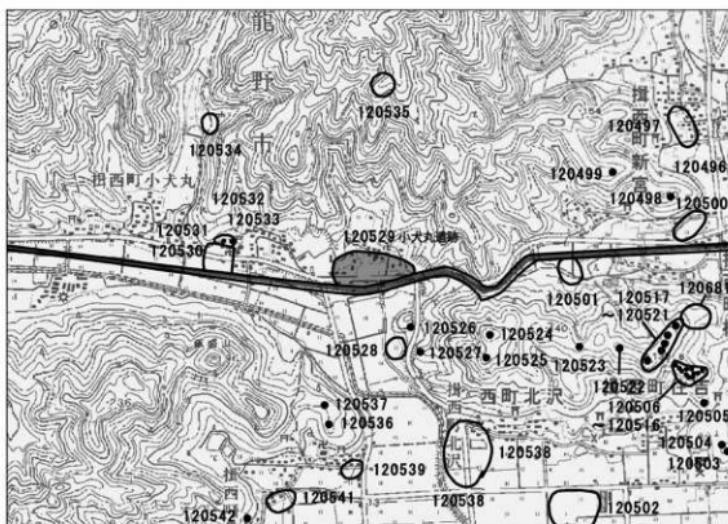


3 向山遺跡 瓦散布地点（南から）

第 25 図 大市駅家の写真

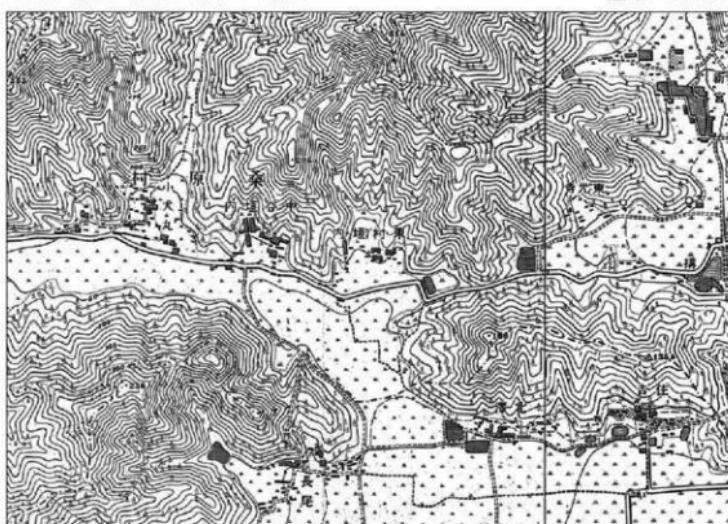
兵庫県遺跡地図 図幅名「二木・龍野」

縮尺：1/20000



図幅名「那波・龍野」 明治 28 年測量

縮尺：1/20000



第26図 布勢駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-M651-19

国土地理院 400dpi データ



2 小犬丸遺跡（南から）



3 布施駅家説明板（東から）



4 小犬丸遺跡から東を望む

第 27 図 布勢駅家の写真

## 1. 地形・現況

南に向いた谷の扇状地である。水田・宅地となっている。

## 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

## 3. 遺物の散布状況

発掘調査で、「布勢」「布世」「驛」などの墨書き器・播磨国府系瓦・鳥形木製品・木製祭祀具・帶金具など出土。

## 4. 過去の調査実績

県道改良工事で、昭和 57~60 年度に兵庫県教育委員会が発掘調査を実施した。範囲確認、市道改良、農業用倉庫建設に伴い、平成 2~5 年度に龍野市教育委員会が発掘調査を実施した。調査で礎石立瓦葺建物群による駅館院や古代山陽道が検出された。

## 5. 文献、地図、絵図等

今里幾次 1978 「古代駅制と布勢駅家」『龍野市史』第 1 卷

今里幾次 1984 「布勢駅家跡」『龍野市史』第 4 卷

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1987 『小犬丸遺跡 I』

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1989 『小犬丸遺跡 II』

龍野市教育委員会 1992 『布勢駅家』

龍野市教育委員会 1994 『布勢駅家 II』

岸本道昭 2006 『山陽道駅家跡』同成社

## 6. 所見、その他

「布勢」「布世」「驛」の墨書き器が出土しているため、布勢駅家であることが判明している。文献に記載されている古代山陽道の駅館が瓦葺きであり、白壁・赤塗りであったことが初めて検証された遺跡である。また、初期の掘立柱建物から礎石瓦葺き建物に建て替えられていることが判明した。ただし、調査範囲が限られているため、駅館院と山陽道のとりつき方は解明されていない。

## 12 高田駅家

### 12-1 高田宿遺跡（県遺跡地図番号 480276）〔第 28 図・第 29 図、図版 2、写真図版 1・2〕

所在地 赤穂郡上郡町宿

調査担当者 調査第 2 班 主査 西口圭介・主査 篠宮 正

調査日 平成 20 年 3 月 25 日（遺跡調査番号 2007148）

所管教育委員会 上郡町教育委員会 社会教育課 文化財係 島田 拓

## 1. 地形・現況

古代山陽道が椿岬を西に向かって越え、谷が開けた場所に位置し、西に向かって張り出した尾根の先端（西側）の平坦地である。北側は高田川の支流である作用谷川が流れ、南側は一段下がっている。周辺は昭和 47 年以前に圃場整備が行われている。

## 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

県道姫路上郡線が推定古代山陽道跡（遺跡地図番号 480274）である。圃場整備が行われている。

## 3. 遺物の散布状況

中世の遺跡として登録されている高田宿遺跡の東端および東端の隣接地で古代に位置づけられる多量の丸瓦・平瓦と土器を採集した。軒瓦は採集できなかった。雨の後で水田に水が入っていたため詳細な範囲は把握できなかった。

遺物は耕作による搅拌により細片化している。3は須恵器杯の口縁である。4は平瓦部凸面に縦方向のヘラケズリが施されており、軒平瓦の平瓦部と考えられる。5は丸瓦の丸瓦部の玉縁際の部分である。6～13は平瓦である。凸面のタタキ目の種類は横長斜格子(6)、縦長長方形格子(7)、偏斜格子(8)、横長斜格子に縦条線が加わる特殊格子(9・10)、粗い平行条線(12)、細かい網目(11)などがあり。13は文様不明である。

#### 4. 過去の調査実績

なし。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

なし。

#### 6. 所見、その他

高田駅家の候補地は從来から神明寺遺跡が有力視されてきたが、高田地域は昭和47年以前に圃場整備が行われており、十分検討されていない。今回、高田宿遺跡において古代瓦や土器が採集できたため、高田駅家の有力な推定地の一つと考えてよいだろう。これは遺物からだけではなく、地形からみても谷の出口付近に位置する布勢駅家(小犬丸遺跡)や野磨駅家(落地遺跡)、山陰道栗鹿駅家(柴遺跡)と同様であり、立地からも肯定できる要素である。ただし、播磨国府系の軒瓦が採集できていなことと、圃場整備で瓦などの遺物が移動していることが考えられ、今後の検討課題である。

#### 7. 補足

平成19年度の分布調査で遺物を採集した地点については、その後、新たに辻ヶ内遺跡(遺跡地図番号480294)として登録された。

### 12-2 神明寺遺跡(県遺跡地図番号480173) [第28図・第29図、図版3、写真図版2]

所在地 赤穂郡上郡町神明寺

調査担当者 調査第2班 主査 西口圭介・主査 篠宮 正

調査日 平成20年3月25日(遺跡調査番号2007148)

所管教育委員会 上郡町教育委員会 社会教育課 文化財係 島田 拓

#### 1. 地形・現況

南に面した緩傾斜地に立地している。周辺は圃場整備が行われている。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

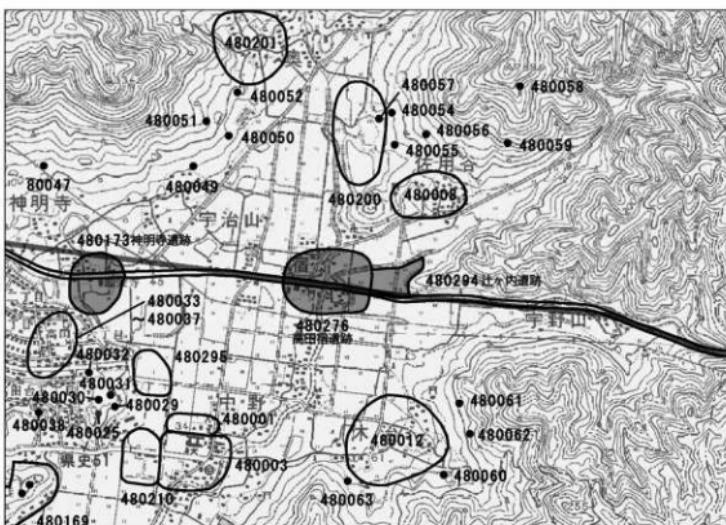
願榮寺境内に塔芯礎とみられる石材あり。古代山陽道は直線を推定すれば、願榮寺周辺では主要地方道姫路上郡線の数十m北側を走っている。

#### 3. 遺物の散布状況

願榮寺南側で丸瓦(15)・平瓦(16・17)・江戸時代の軒平瓦(19)、県道姫路上郡線北側で平瓦(18)・須恵器(14)を採集した。須恵器(14)は体部がやや開く杯Bとみられる。丸瓦(15)は丸瓦端部付近の破片で、凸面に縄タタキ目が見られる。凹面端部側に面取りが施され、端面が尖るほど細くなるとみられる。平瓦には凸面のタタキ目が大型の横長斜格子か×字とみられるもの(16)、間隔の広い網目のもの

兵庫県遺跡地図 図幅名「二木」

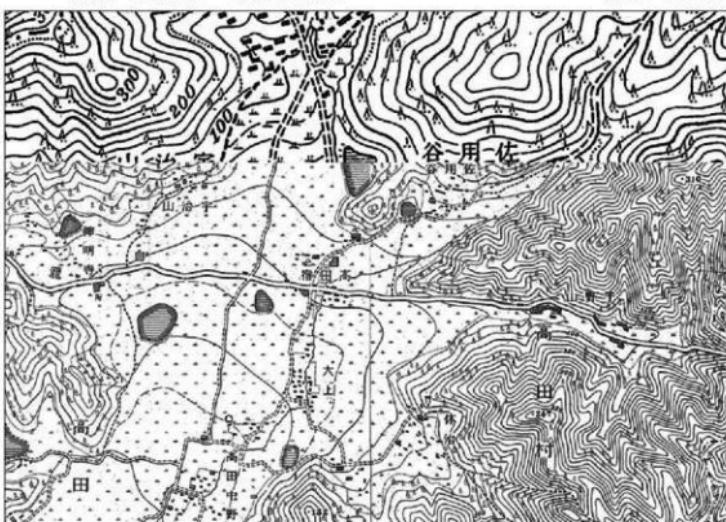
縮尺：1/20000



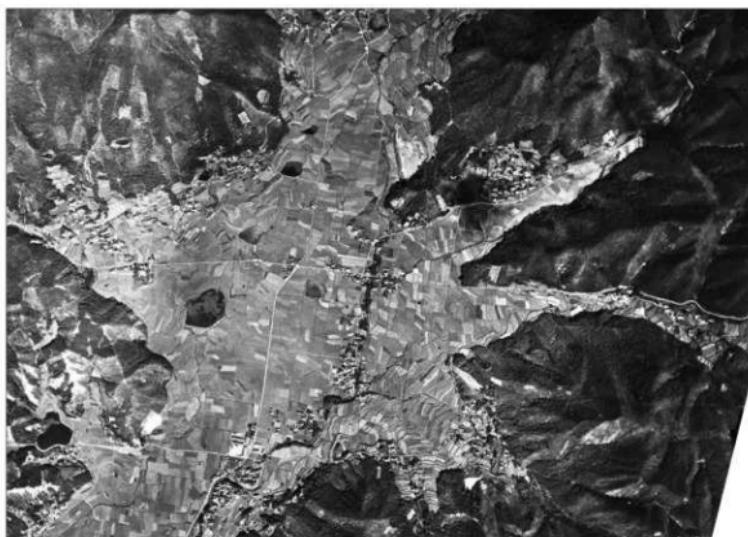
図幅名「有年村・那波」 明治 28 年測量

「上郡」 5 万分の 1 明治 28 年測量

縮尺：1/20000



第 28 図 高田駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R514-2-76

国土地理院 400dpi データ



2 高田宿遺跡と古代山陽道（西から）



3 高田宿遺跡：瓦など遺物採集地（北西から）



4 神明寺遺跡と古代山陽道



5 原榮寺境内：塔芯礎

第 29 図 高田駅家の写真

の（17）間隔の狭い繩目のものが（18）ある。

願榮寺には軒丸瓦・平瓦が所蔵されている。所蔵者によると松岡秀夫氏が採集して、願榮寺に残しておかけたものである。現在、有年考古館にも軒丸瓦・軒平瓦などが保管されている。軒丸瓦（20・21）は複弁八葉蓮華文で、今里幾次氏により長坂寺式II型とされるものである。他の駅家遺跡で出土するI型と比べて、面径がやや小さく、中房部分が突出している。蓮子の個数・配置は不鮮明である。瓦当裏面は丸瓦部に向かって厚みを増し、ナデが施されているが、凹凸がある。側面には範の痕跡が認められる。平瓦（22・23）は凸面に偏斜格子のタタキ目が施されている。

#### 4. 過去の調査実績

願榮寺周辺の圃場整備事業での調査はなし。県道姫路上郡線の北側 50m で平成 19 年度、個人住宅に隣接する小規模な調査あり。山陽道に平行する柱穴列検出。遺物は出土しなかったが、ほかの柱穴から 9 世紀の遺物が出土している。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

西播流域史研究会 1991『有年考古館藏品図録』財団法人有年考古館

#### 6. 所見、その他

高田駅家の候補地は從来から神明寺遺跡が有力視されてきた。神明寺遺跡内の願榮寺の境内には塔芯礎が存在しており、寺院跡の可能性がある。今回、高田宿遺跡（辻ヶ内遺跡）において古代瓦や土器が採集できたため、高田駅家の有力な推定地として高田宿遺跡（辻ヶ内遺跡）が加わった。今後、詳細な調査が必要である。

### 13 野磨駅家

#### 13-1 落地遺跡　飯坂地区（県遺跡地図番号 480171）〔第 30 図・第 31 図〕

所在地　赤穂郡上郡町落地

調査担当者　調査第 2 班　主査　西口圭介・主査　篠宮　正

調査日　平成 20 年 3 月 25 日（遺跡調査番号 2007148）

所管教育委員会　上郡町教育委員会　社会教育課　文化財係　島田　拓

#### 1. 地形・現況

駅館院は北・東・南の三方を給料で開まれた谷の開口部に立地している。現況は山林・荒れ地になっている。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

駅館院の基壇・礎石・築地塀など現地表で確認できたほど良好に残っている。

#### 3. 遺物の散布状況

古くから瓦などが採集されている。

#### 4. 過去の調査実績

遺跡範囲と内容を確認するため、上郡町教育委員会が平成 14 年度から平成 16 年度にかけて調査を実施している。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

上郡町教育委員会 2006『古代山陽道野磨駅家跡』

岸本道昭 2006『山陽道駅家跡』同成社

## 6. 所見、その他

築地区内に礎石建物群が配置され、西面築地では八脚門が検出されている。駅家跡と推定される遺跡の中では最も遺構の残存状況の良い遺跡であり、平成18年に国指定史跡に指定されている。

### 13-2 落地遺跡 八反坪地区（県遺跡地図番号 480171）【第30図・第31図】

所在地 赤穂郡上郡町落地

調査担当者 調査第2班 主査 西口圭介・主査 麻宮 正

調査日 平成20年3月25日（遺跡調査番号 2007148）

所管教育委員会 上郡町教育委員会 社会教育課 文化財係 島田 拓

#### 1. 地形・現況

梨ヶ原川の東岸に位置し、山塊との間の扇状地に立地している。現況は圃場整備が終わった水田になっている。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

#### 3. 遺物の散布状況

調査で遺物が出土している。

#### 4. 過去の調査実績

昭和61年に県道拡幅のため兵庫県教育委員会が、圃場整備のため平成元年・平成2年に、遺跡範囲と内容を確認するため平成14年度から平成16年度にかけて上郡町教育委員会が調査を実施し、山陽道痕跡・建物跡が調査されている。

#### 5. 文献、地図図、絵図等

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1991『落地遺跡』兵庫県文化財調査報告第90冊

上郡町教育委員会 2005『落地遺跡』

上郡町教育委員会 2006『古代山陽道野磨駅家跡』

岸本道昭 2006『山陽道駅家跡』同成社

#### 6. 所見、その他

古代山陽道の西側からコの字形に配置された建物群や八脚門が検出され、初期野磨駅家と考えられている。平成18年に国指定史跡に指定されている。

## 第3節 美作道・因幡道の調査

山陽道の支道である美作道は播磨国府の西側で山陽道から分岐すると見られ、駅家は延喜式所載の播磨国2駅（越部・中川）が認められる。『日本後紀』所載の因幡国八上郡莫男駅・智頭郡道保駅の存在から推定される因幡道は、美作道から佐用町で分岐するとみられている。

### 1 越部駅家

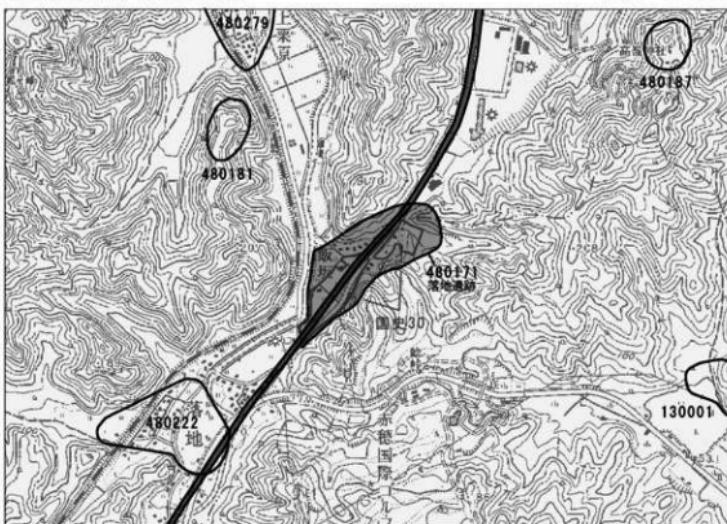
#### 1-1 馬立遺跡（県遺跡地図番号 430143）【第32図・第33図】

所在地 たつの市新宮町馬立

調査担当者 調査第2班 主査 長濱誠司・技術職員 上田健太郎

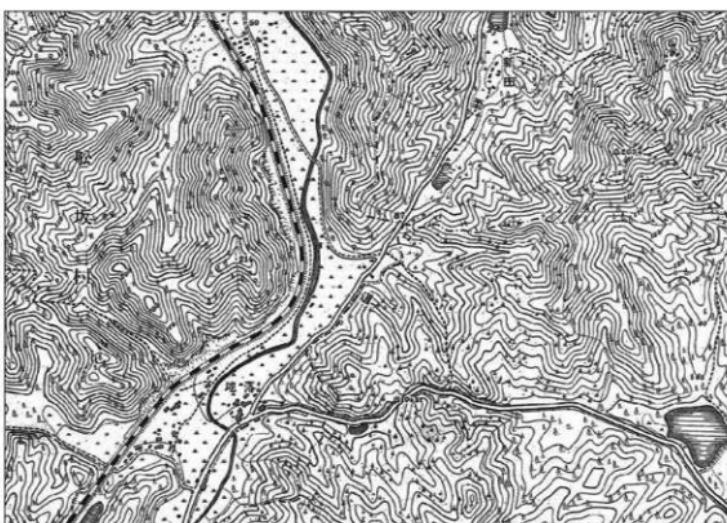
兵庫県遺跡地図 図幅名「上郡」

縮尺：1/20000

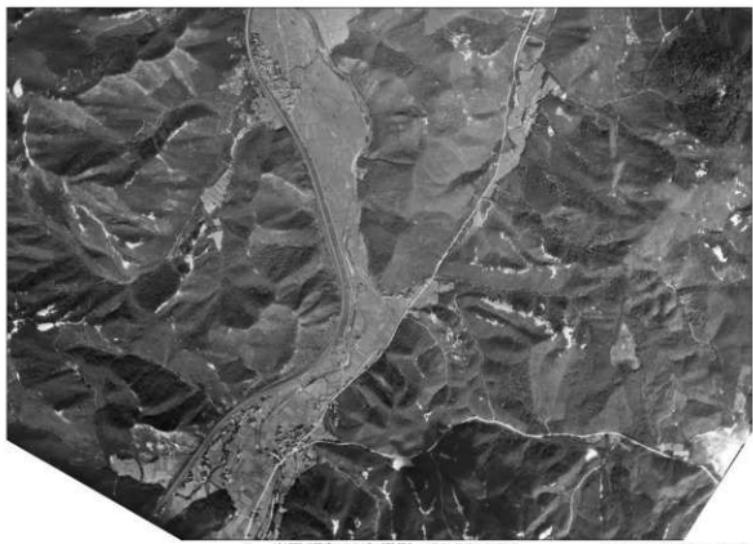


図幅名「有年村」 明治 28 年測量

縮尺：1/20000



第30図 野磨駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R516-3-9

国土地理院 400dpi データ



2 落地遺跡飯坂地区全景



3 落地遺跡飯坂地区磁石瓦葺建物基壇 (西から)



4 落地遺跡八反坪地区説明板と古代山陽道  
(南西から)

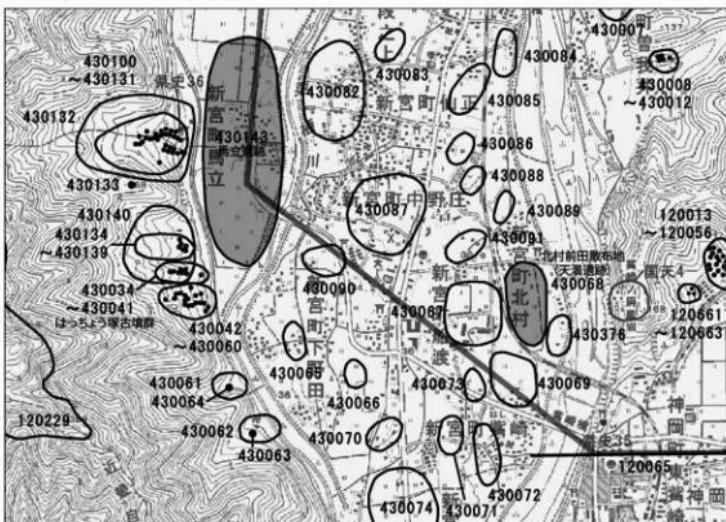


5 落地遺跡から南西を望む

第 31 図 野磨駅家の写真

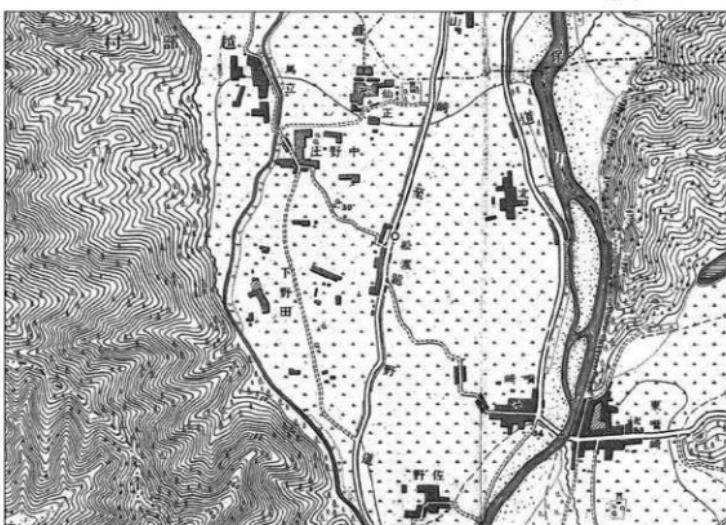
兵庫県遺跡地図 図幅名「龍野」

縮尺：1/20000



図幅名「林田」 明治 28 年測量

縮尺：1/20000



第32図 越部駅家の位置図



1 米軍 昭和 23 年撮影 USA-M909-136

国土地理院 400dpi データ



2 馬立遺跡遠景（西南から）



3 越部廃寺遠景（南から）



4 菅崎天満遺跡（北村前田敷地）（南から）



5 はっちょう塚 7 号墳（南から）

第 33 図 越部駅家の写真

調査日 平成 20 年 3 月 25 日（遺跡調査番号 2007149）

所管教育委員会 たつの市立埋蔵文化財センター 主幹 志水豊章・副主幹 義則敏彦

#### 1. 地形・現況

揖保川、栗柄川に挟まれた沖積地。現況は集落と耕作地である。ほ場整備実施前は古代までさかのぼる可能性がある条里制地割が明瞭に残存していた。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

なし。

#### 3. 遺物の散布状況

なし。

#### 4. 過去の調査実績

ほ場整備などで調査を行っているが、明確な遺構・遺物は検出されていない。

#### 5. 文献、地図、絵図等

兵庫県教育委員会 1994『美作道』歴史の道調査報告書第4集

新宮町教育委員会 1989『播磨国越部庄 図版篇』広域水田遺跡調査報告書1

大手前大学史学研究所 2007『馬立遺跡発掘調査報告書』

#### 6. 所見、その他

明確な遺構や遺物の散布は認められないが、越部駅家は馬立付近に所在するのが妥当とされる。揖保川西岸付近に所在する荷崎天神遺跡（北村前田散布地 遺跡地図番号：430068）は、多数の瓦が出土し寺院の可能性が高いものの、河川交通や伝馬制に関わる施設とも考えられている。

新宮町以西の古代美作道推定ルートであるが、近世に旧三日月町に向かう道路が整備された経緯がある。したがって越えなどを含めて古代美作道の路線推定は再検討する必要がある。

## 2 中川駅家

1-1 新宿廃寺（県遺跡地図番号 520026）〔第34図・第35図〕

所在地 佐用郡佐用町末広

調査担当者 調査第2班 主査 長濱誠司・技術職員 上田健太郎

調査日 平成 20 年 3 月 25 日（遺跡調査番号 2007149）

所管教育委員会 佐用町教育委員会總務課 課長補佐 藤木 透

#### 1. 地形・現況

千種川支流の志文川を見下ろす段丘端部に位置する。現況は畠地である。

#### 2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

礎石が 3 個残存し、その傍らに遺跡看板が立つ。

#### 3. 遺物の散布状況

礎石周辺の耕作地に須恵器・瓦片が散布する。

#### 4. 過去の調査実績

1962 年に発掘調査が行われたが詳細は不明である。以後礎石付近の調査は行っていない。周辺の調査では、遺構は検出されず、遺物の出土も少ない。

#### 5. 文献、地図、絵図等

兵庫県教育委員会 1994『美作道』歴史の道調査報告書第4集

兵庫県佐用郡三日月町 1964『三日月町史 第一巻 古代』

6. 所見、その他

詳細な状況は不明ながら、後期古墳の分布などから当該地周辺が古代中川里の中心部であることは間違いないと思われる。ただ新宿庵寺を駅家とするかは不明であり、庵寺の東側にある現新宿集落を範囲とする中川遺跡（県遺跡地図番号 520036）も駅家の推定地の1つと考えられる。また、駅家の所在地を推定する上で、古代美作道の三日月～佐用間のルートは再考する必要があるだろう。

3 中川－美作国府間古代美作道・佐用一道保間古代因幡道

3-1 長尾・沖田遺跡（県遺跡地図番号 490012）〔第36図・第37図〕

所在地 佐用郡佐用町長尾

調査担当者 調査第2班 主査 長瀬誠司・技術職員 上田健太郎

調査日 平成30年2月15日（遺跡調査番号 2017126）

所管教育委員会 佐用町教育委員会総務課 課長補佐 藤木 透

1. 地形・現況

中位段丘上。田地が多い。

2. 古道・基壇・礎石などの遺構の有無

長尾庵寺の塔心礎が残存し、佐用高校内に移動された礎石が3個存在する。

3. 遺物の散布状況

遺物の散布は確認できなかった。

4. 過去の調査実績

昭和58年度～昭和62年度と平成元年度の長尾・沖田遺跡の発掘調査で、道幅約3.5m、側溝幅約1.2mの南北方向の道路跡とそれに直交する東西道路の交差点部分を検出している。溝からは奈良時代後半から平安時代にかけての土器が出土している。南北道路が因幡道、東西道路が美作道の路線と考えられている。

5. 文献、地図、絵図等

兵庫県教育委員会 1994『美作道』歴史の道調査報告書第4集

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1991『長尾・沖田遺跡』兵庫県文化財調査報告第100冊

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1993『長尾・沖田遺跡（II） 岡ノ平遺跡』兵庫県文化財調

査報告第120冊

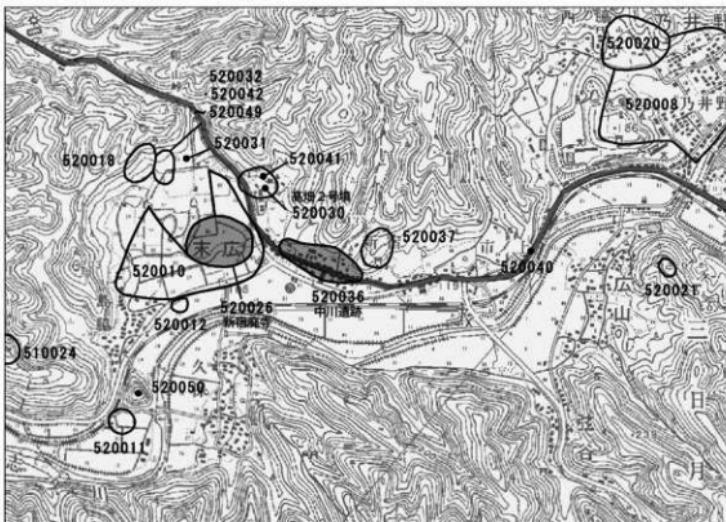
兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 1998『八反田遺跡』兵庫県文化財調査報告第180冊

6. 所見、その他

長尾・沖田遺跡内では、「八反田遺跡」として調査された地点で大型の掘立柱建物跡の検出があり、佐用郡衙の所在地と推定され、古代寺院である長尾庵寺も存在する。佐用郡内の中枢部であり、交通路の交差点としてふさわしい位置である。

兵庫県遺跡地図 図幅名「三日月」

縮尺：1/20000



図幅名「上郡」 5万分の1 明治28年測量

縮尺：1/20000



第34図 中川駅家の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R515-5-58

国土地理院 400dpi データ



2 中川遺跡（西から）



3 新宿寺（北から）



4 新宿寺碑石（北から）

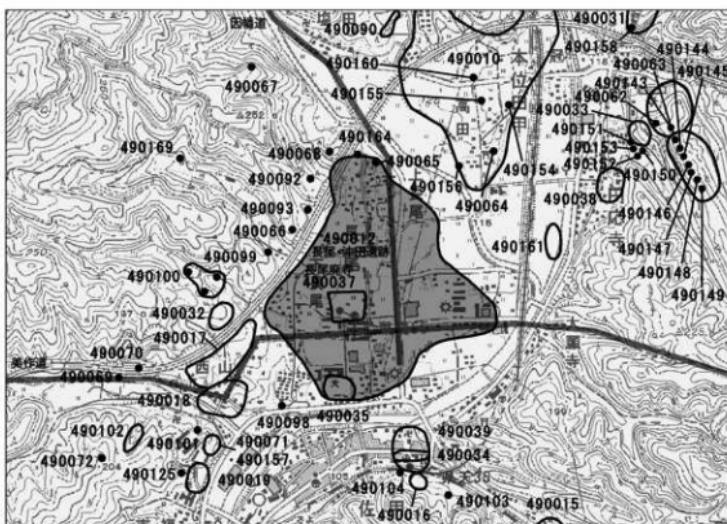


5 高畠 2号墳

第 35 図 中川駅家の写真

兵庫県遺跡地図 図幅名「佐用・土万」

縮尺：1/20000



図幅名「佐用」5万分の1 明治30年測量

縮尺：1/20000



第36図 中川—美作国府間古代美作道・佐用一道保間古代因幡道の位置図



1 米軍 昭和 22 年撮影 USA-R515-5-65

国土地理院 400dpi データ



2 長尾・沖田遺跡道路遺構検出地点（南から）



3 長尾・沖田遺跡道路遺構検出地点（北から）



4 八反田遺跡（東から）



5 長尾廃寺塔心礎

第 37 図 中川一美作国府間古代美作道・佐用一道保間古代因幡道の写真

## 第3章 駅家遺跡関連遺物の調査

### 第1節 調査の趣旨

駅家遺跡の発見・特定に関して瓦の分析が大きな役割を果たしてきたことは周知の事実である。これまでⅢ期にわたって調査を行ってきた古大内遺跡・長坂寺遺跡・向山遺跡については、兵庫県立博物館が実施した調査が本格的なものとしては初めてのものであった。ただし、各調査は小規模にとどまつたため、分析の主眼となる軒瓦の出土は僅少にとどまる。本来、各調査の報告時に既知の資料を含めて検討すべきであったのだが行いていない。

駅家遺跡出土瓦の分析は、今里幾次氏の播磨國府系瓦の設定とその研究に大半を負ってきた。表採資料のみを資料とした段階でその研究の骨格が固められ、各市町村史の瓦の項目の記述を一手に引き受けられるとともに、その後発掘調査の進んだ小丸遺跡・落地遺跡を含む寺院・官衙遺跡の報告書の刊行にあたっても瓦の分析を担当されたことによって進められてきた。このように今里氏の長期間の蓄積に基づいた研究は広範深甚なものであった。そのためもあって、今里氏以外による多面的な検証はほとんどはかられないまま現在に至っている。

そこで改めて駅家遺跡出土瓦の製作技法を視点に含めて観察し、基本的な資料を蓄積するために、以下の2項目に該当する資料について調査を行うこととした。

- (1) 大規模な調査が行われた小丸遺跡・落地遺跡以外の駅家遺跡から出土した瓦の集成的な調査
- (2) 小丸遺跡・落地遺跡やその他の遺跡から出土する播磨國府系瓦などについては標準的な資料となる良好な個体の調査

今回は古大内遺跡を主な対象として実施した加古川市教育委員会所蔵瓦について報告する。

### 第2節 加古川市教育委員会所蔵瓦の調査

古大内遺跡から出土した瓦については、戦前の鎌谷木三次氏著『播磨上代寺院跡の研究』に古大内式軒丸瓦・軒平瓦が掲載され、今里幾次氏により『播磨國分寺式瓦の研究・加古川市野口町古大内出土の古瓦』や『加古川市史』第4巻で紹介されているものが代表的なものであるが、採集品が各所に分蔵されているため、全容は明らかでない。

今回は加古川市教育委員会の協力を得て、小規模な発掘・立合調査により出土した破片も含めて調査することができた。あわせて野口庵寺から出土した北宿式の軒瓦の良好な個体についても調査させていただいた。

#### 1 古大内遺跡 [図版4～6、写真図版3・4]

軒丸瓦は古大内式1点、毘沙門式1点、野条式1点と周縁の破片1点である。他に古大内式1点が所蔵されているが今回は調査することができなかった。

24は古大内式軒丸瓦である。連弁内に范キズが1ヶ所確認できる。今里分類のI型の可能性が高い。瓦当裏面はナデが施されている。25は周縁部の破片である。24と同一地点で出土し、同一個体の可能性がある。26は毘沙門式軒丸瓦である。丸瓦部は凸面に縦方向のヘラケズリ、凹面に縦方向のナデが施されている。27は野条式軒丸瓦である。瓦当側面に範型の痕跡が認められる。丸瓦部は凸面に縦方向のヘ

ラケズリが施され、凹面に布目が残る。

軒平瓦は古大内式3点、野条式1点、国分寺式1点である。他に古大内式1点が所蔵されているが今回は調査することができなかった。

28~30は古大内式軒平瓦である。28・29は范キズの進んだ今里分類の乙類で、向かって右端の唐草文の部分が鋭く産んでいる。小犬丸遺跡出土の乙類にも同様のくぼみが存在するが、古大内遺跡出土例の方が深く産んでいる。范の裏側から打ち込まれたクサビの先端が突き出していたことによると思われる。28は周縁上端部に范の痕跡が確認される。顎面は横方向のヘラケズリ、平瓦部凸面は縦方向のヘラケズリ、凹面は瓦当部側に横方向のヘラケズリ及び縦方向のナデが施され、平瓦部側に布目と糸切痕が確認される。右側縁寄りの部分では布端が見られる。凹面側の左側縁ではわずかに圧痕の可能性あるくぼみが認められる。29は表面がやや磨滅している。凹面側の右側縁では角柱の棒状圧痕が認められる。30は顎面及び瓦当裏面に横方向のナデ、平瓦部凸面に縦方向のヘラケズリ、凹面の瓦当部側に横方向のヘラケズリ、布目後縦方向のナデが施されている。凹面の右側縁寄りの部分に布端が見られ、端面にも布目が残る。凹面側の右側縁では棒状圧痕が認められる。凹面の瓦当側中央部は表面が細かく剥離している。凸面の瓦当部から約8cmのところで赤色顔料の付着が認められる。31は野条式軒平瓦である。表面はかなり磨滅しているが、平瓦部凸面は縦方向のヘラケズリが施されている。32は播磨国分寺軒平瓦である。脇区に珠文のない今里分類II型である。瓦当部が厚いため上側の周縁が突線状になっている。顎面は広く横方向のヘラケズリが施されているとみられる。平瓦部凸面は縦方向のヘラケズリが施されている。凹面は布目の上に格子目タタキの転写痕が認められ、端面にも布目が残る。

## 2 野口廃寺〔図版7・8、写真図版5〕

古大内遺跡の北東約600mの加古川市野口町野口に所在する野口神社の境内地を中心とする範囲に広がる古代寺院跡である。加古川市教育委員会によって平成6・7年度に発掘調査がなされ講堂跡・塔跡の遺構が検出された。この調査により北宿式の軒丸瓦・軒平瓦の良好な個体が出土している（加古川市教育委員会文化財調査研究センター2004）。

33は北宿式軒丸瓦である。中房と外側の2重圓線間の無文部分は平坦でなく、同心円のスジ状痕跡が見られ、中房内の蓮子以外の部分も含めて細かく凹凸をもっている。2重圓線間には范キズが認められる。瓦当側面部には范の痕跡認められる。瓦当裏面は円弧状にナデが施され、丸瓦部の凸面側は縦方向のヘラケズリ、凹面側は縦方向のナデが施されている。

34・35は北宿式軒平瓦である。周縁上端部に范の痕跡が認められ、周縁の両脇では縦方向にヘラ状工具によるスジが入れられている。34は顎面に横方向のヘラケズリ、平瓦部凸面に縦方向のヘラケズリ、凹面の瓦当側に横方向のヘラケズリが施され、凹面は布目が残る。35は顎面に横方向のヘラケズリ、顎部裏面に横方向のナデ、平瓦部凸面に縦方向のヘラケズリ、凹面の瓦当側に横方向のヘラケズリが施され、平瓦部凹面は布目の後ナデが施されている。

## 参考文献

今里幾次 1960『播磨国分寺式瓦の研究・加古川市野口町古大内出土の古瓦』

今里幾次 1989『賀古駅家と古代の駿制』『加古川市史』第1卷

今里幾次 1996『賀古駅家跡（古大内遺跡）』『加古川市史』第4卷

## 査報告 19

加古川市総合文化センター1990『奈良・平安時代の出土遺物』

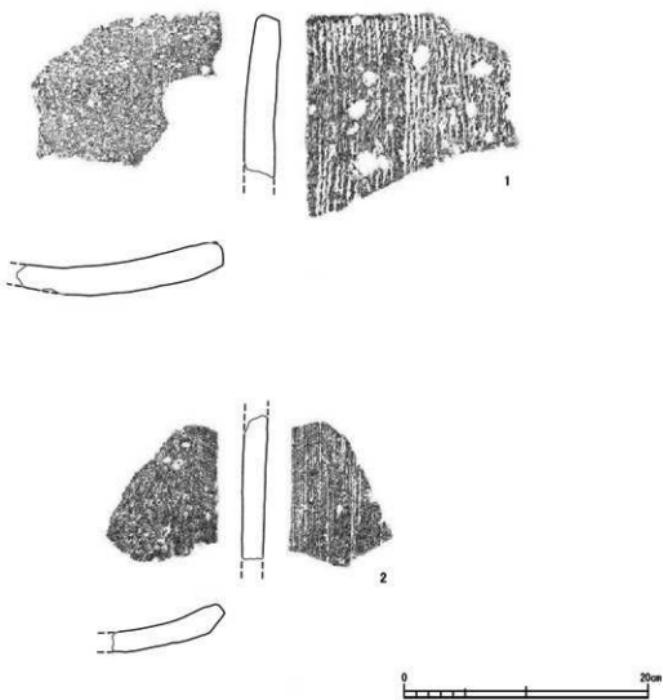
鎌谷木三次 1942『播磨上代寺院跡の研究』

付表1 遺物一覧表

番号	遺跡名	種別	器種	法量(cm)				構成	妙粒	備考
				長さ	幅	厚み	その他			
01	向山遺跡	瓦	平瓦	(16.5)	(17.0)	2.5		軟質	径1mm以下	
02	向山遺跡	瓦	平瓦	(12.6)	(9.8)	1.9		軟質	径2.5mm以下	
03	辻ヶ内遺跡	須恵器	杯					良好	径0.5mm以下少量	
04	辻ヶ内遺跡	瓦	軒平瓦	(11.4)	(12.1)	2.45		軟質	径1mm以下やや多	
05	辻ヶ内遺跡	瓦	丸瓦	(12.5)	(9.3)	1.9		軟質	径3mm以下やや多	
06	辻ヶ内遺跡	瓦	平瓦	(19.3)	(8.8)	1.9		軟質	径1mm以下少量	
07	辻ヶ内遺跡	瓦	平瓦	(8.6)	(10.9)	2.55		須恵質	径0.5mm以下少量	
08	辻ヶ内遺跡	瓦	平瓦	(8.6)	(7.9)	2.45		須恵質	径1mm以下少量	
09	辻ヶ内遺跡	瓦	平瓦	(8.0)	(7.9)	2.4		軟質	径3mm以下	
10	辻ヶ内遺跡	瓦	平瓦	(9.1)	(6.6)	2.1		須恵質	径1mm以下少量	
11	辻ヶ内遺跡	瓦	磚切平瓦	(4.4)	(6.5)	2.05		須恵質	径2.5mm以下少量	
12	辻ヶ内遺跡	瓦	平瓦	(9.2)	(13.1)	2.6		軟質	径1.5mm以下少量	
13	辻ヶ内遺跡	瓦	平瓦	(8.1)	(8.4)	2.1		瓦質	径2.5mm以下	
14	神明寺遺跡	須恵器	杯					良好	径1mm以下無量	県北山側
15	神明寺遺跡	瓦	丸瓦	(4.6)	(4.3)	1.65		須恵質	径0.5mm以下無量	
16	神明寺遺跡	瓦	平瓦	(7.7)	(6.9)	1.65		須恵質	径1mm以下の無量	
17	神明寺遺跡	瓦	平瓦	(10.8)	(10.8)	1.6		瓦質	径0.3mm程度少量	
18	神明寺遺跡	瓦	平瓦	(6.7)	(4.4)	1.65		須恵質	径1mm以下少量	県北山側
19	神明寺遺跡	瓦	軒平瓦	(6.3)	(8.5)	1.45	瓦当幅幅3.95、外区幅1.3	瓦質	あまり含まない	
20	神明寺遺跡	瓦	軒丸瓦	(4.8)			瓦当幅幅(15.0)、外区幅	軟質	径2mm以下多い	懶染寺隣
21	神明寺遺跡	瓦	軒丸瓦	(4.3)			瓦当幅幅(15.0)、外区幅	中央軟質	径1mm以下	懶染寺隣
22	神明寺遺跡	瓦	平瓦	(12.4)	(12.2)	1.8		須恵質	径1.5mm以下	懶染寺隣
23	神明寺遺跡	瓦	平瓦		(10.3)	1.6		須恵質	径1.5mm以下	懶染寺隣
24		瓦	丸 刷	-	2.3( )		縦 道 内 大 古	径 n m <sup>2</sup> 1質以	加古川市教育委員会蔵 19228	
25		瓦	丸 刷	-	3.5( )		縦 道 内 大 古	径 n m <sup>2</sup> 1質以	加古川市教育委員会蔵 19225	
26		瓦	丸 刷	-	7.5( )		縦 道 内 大 古	径 n m <sup>2</sup> 1質	加古川市教育委員会蔵 1984.06.11	
27	古大内遺跡	瓦	軒丸瓦	(5.7)	14.65	2.0	瓦当面幅14.9、外区幅11.7	軟質	径2mm以下多い	加古川市教育委員会蔵 19226
28	古大内遺跡	瓦	軒平瓦	(17.2)	28.1	3.1	瓦当幅幅5.0、外区幅幅3.4	軟質	径1mm以下	加古川市教育委員会蔵 21363所12、加古川市 総合文化センター-1990 写真24
29	古大内遺跡	瓦	軒平瓦	(12.0)	(11.1)	3.4	瓦当幅幅5.6、外 区幅幅3.5	瓦質	径1mm以下少量	加古川市教育委員会蔵 1
30	古大内遺跡	瓦	軒平瓦	35.3	26.8	2.8	瓦当幅幅6.4、外 区幅幅3.3	良好	径1.5mm以下少量	加古川市教育委員会蔵 1984.06.11
31	古大内遺跡	瓦	軒平瓦	(14.6)	(12.8)	4.3	瓦当幅幅5.7、外 区幅幅3.95	軟質	径5mm以下多い	加古川市教育委員会蔵 4
32	古大内遺跡	瓦	軒平瓦	36.3	(22.2)	4.3	瓦当幅幅6.7、外 区幅幅4.6	良好	径3mm以下	加古川市教育委員会蔵 10446-2053-古大内77 市史第4巻図216-2
33	野口庵寺	瓦	軒丸瓦	(11.5)	14.9	2.1	瓦当面幅16.2、外 区幅幅1.2	中央軟質	径1.5mm以下少量	加古川市教育委員会蔵 報告番号15
34	野口庵寺	瓦	軒平瓦	(25.2)	(25.4)	3.6	瓦当幅幅6.2、外 区幅幅1.05	良好	径0.5mm以下多い	加古川市教育委員会蔵 報告番号26
35	野口庵寺	瓦	軒平瓦	(15.4)	(17.3)	2.3	瓦当幅幅5.3、外 区幅幅3.8	良好	径1mm以下多い	加古川市教育委員会蔵 報告番号27

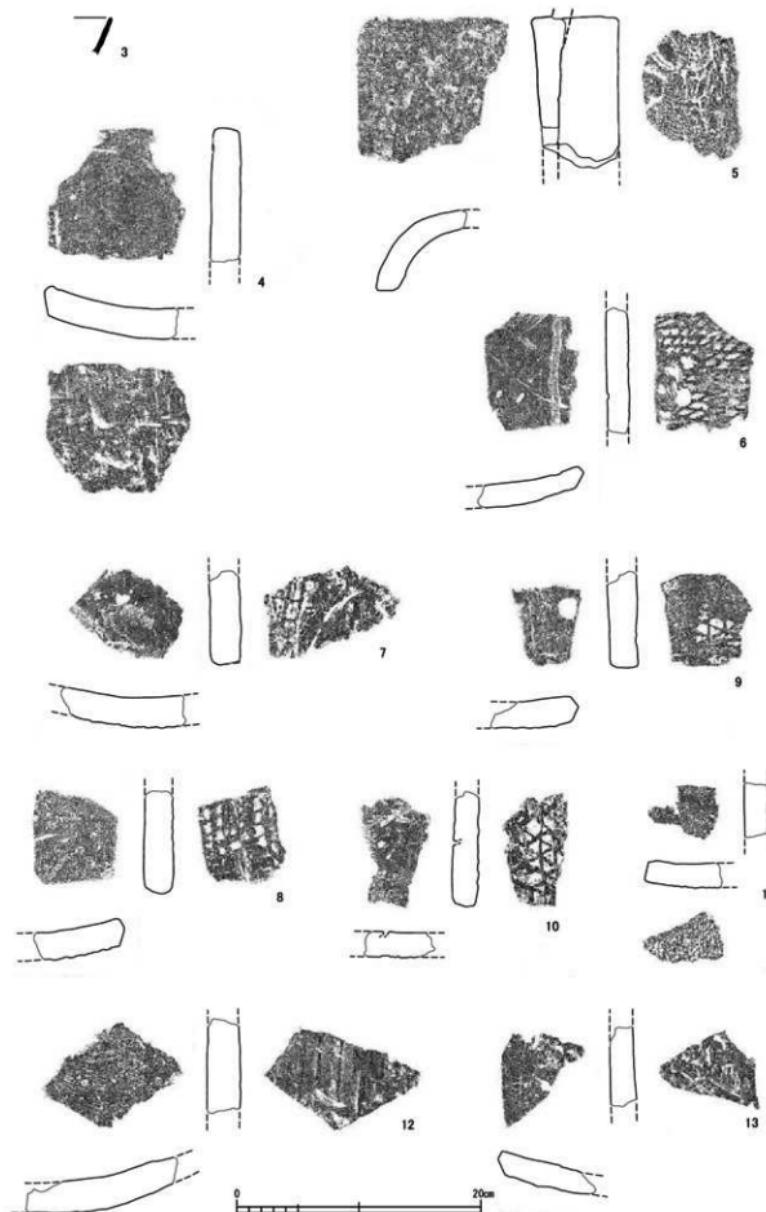
図版 1

向山遺跡の遺物



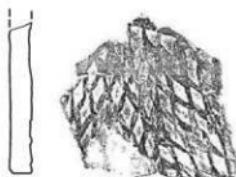
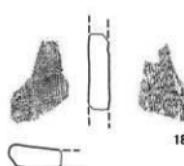
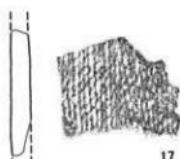
図版2

辻ヶ内遺跡の遺物



図版3

神明寺遺跡の遺物



20～23 顯榮寺藏



図版4

古大内遺跡の瓦 (1)



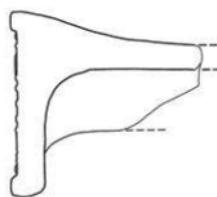
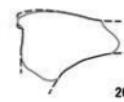
24



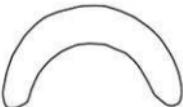
25



26



27



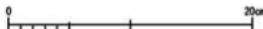
28



29



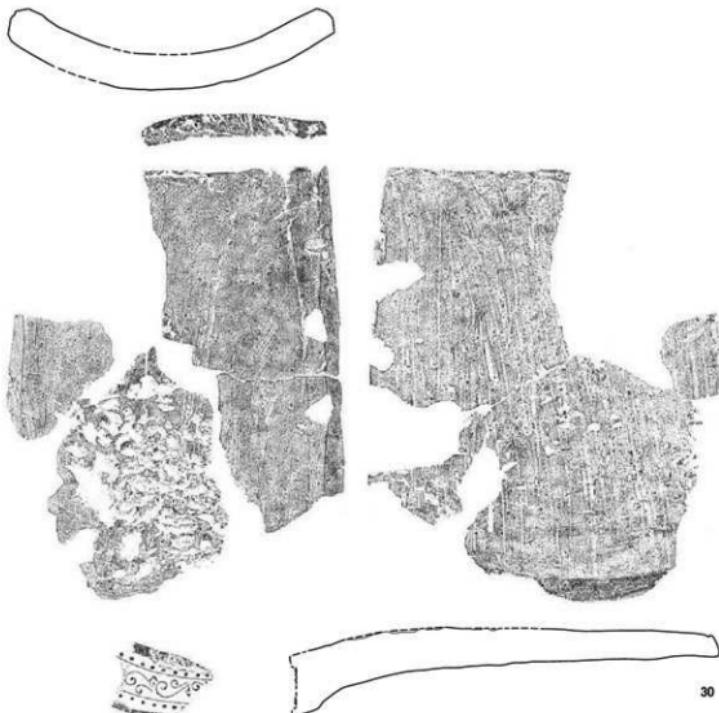
24 ~ 29 加古川市教育委員会蔵



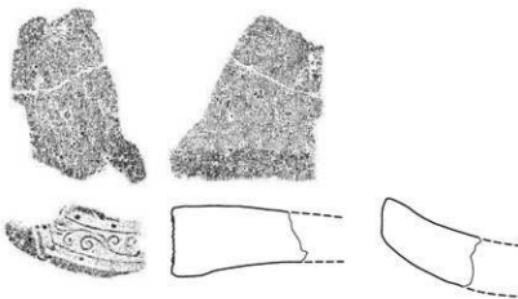
20cm

図版 5

古大内遺跡の瓦 (2)



30



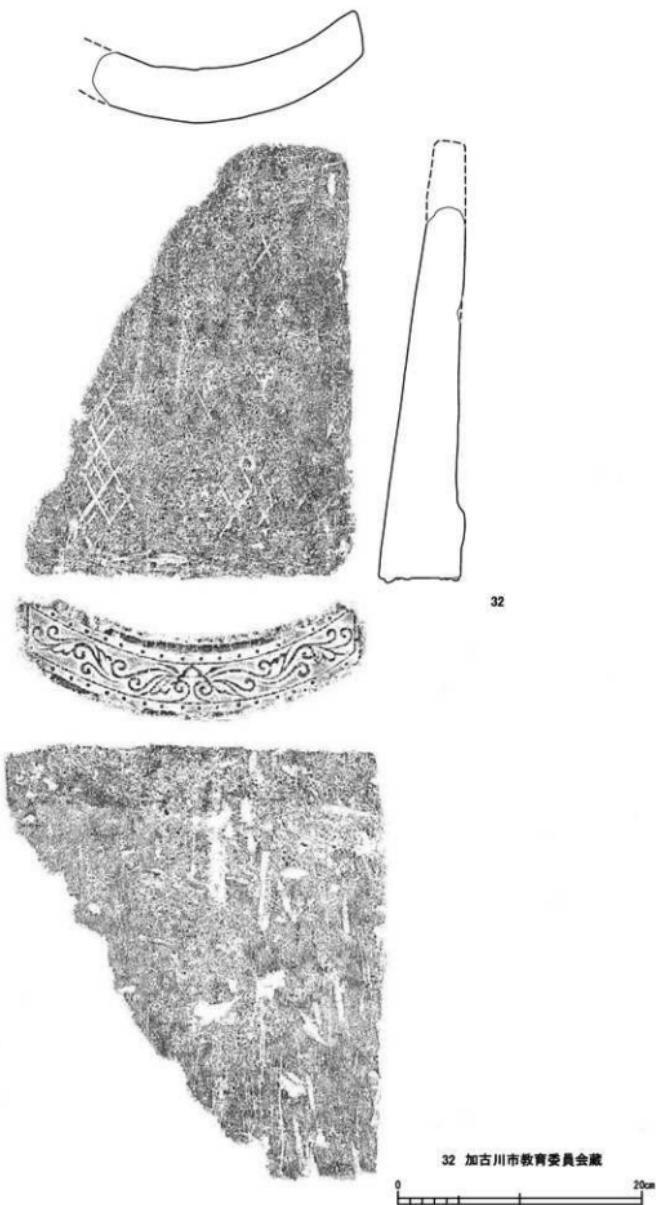
31

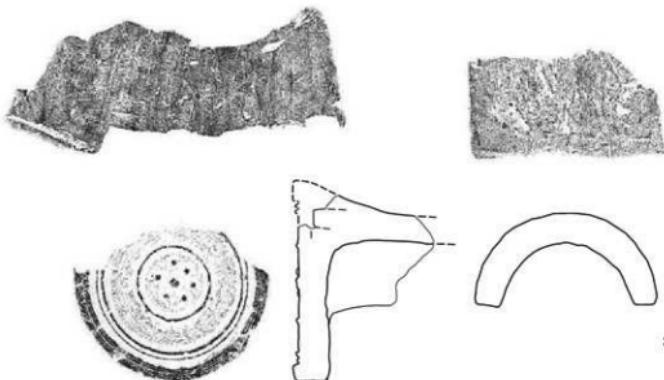
30-31 加古川市教育委員会蔵



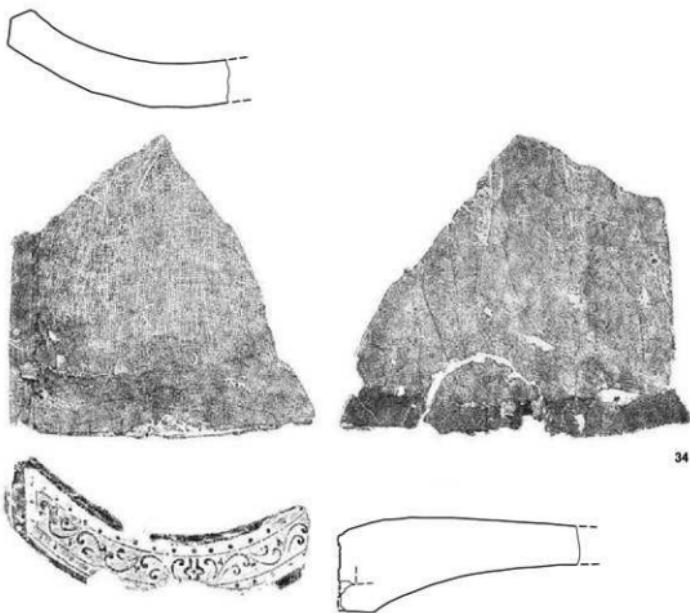
図版6

古大内遺跡の瓦 (3)





33



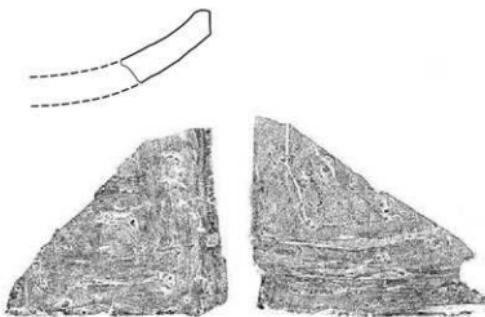
34

33-34 加古川市教育委員会蔵

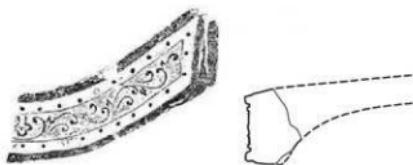


図版8

野口廃寺の瓦 (2)



35



35 加古川市教育委員会蔵



写真図版 1  
向山遺跡・辻ヶ内遺跡の遺物



1



2



3



4



5



6



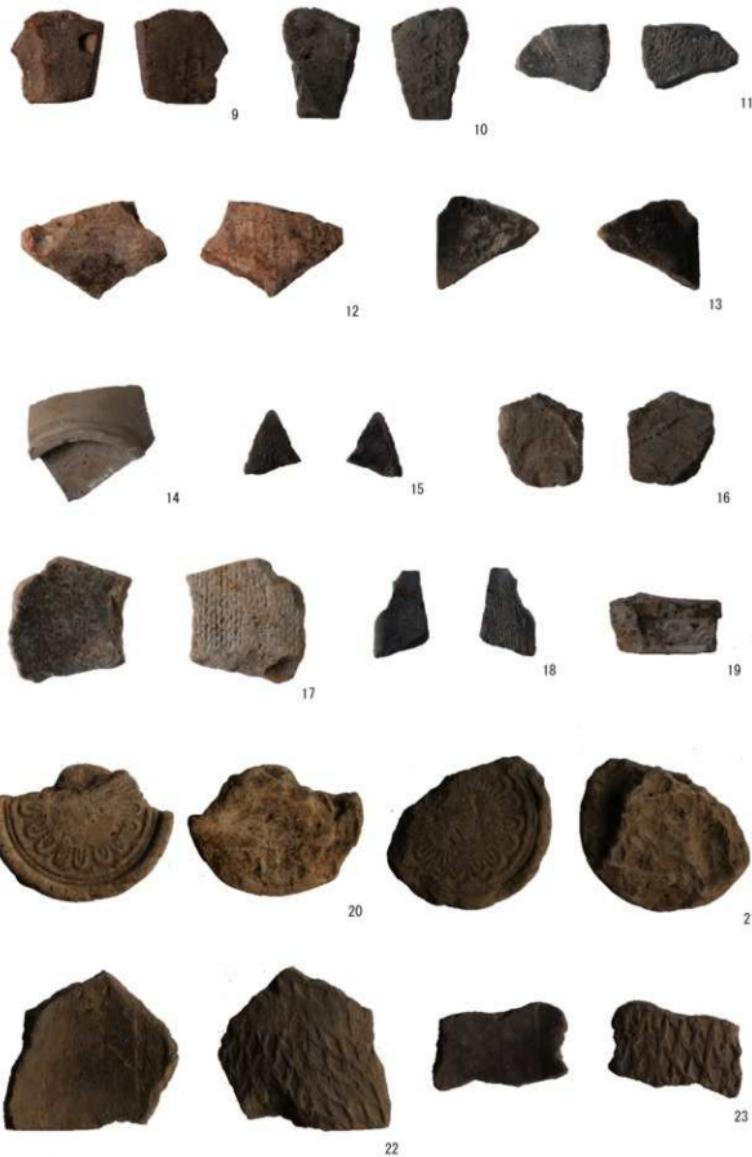
7



8

## 写真図版 2

辻ヶ内遺跡・神明寺遺跡の遺物



写真図版 3

古大内遺跡の瓦(1)



24



25



26



27



29



31



28

写真図版 4

古大内遺跡の瓦（2）



30

32

写真図版 5  
野口廃寺の瓦



33



35

34

33 ~ 35 加古川市教育委員会蔵



## 報 告 書 抄 錄

---

兵庫県文化財調査報告 第 500 冊

## 兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書IV

平成 30 (2018) 年 3 月 30 日 発行

編集：兵庫県立考古博物館  
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号

発行：兵庫県教育委員会  
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

印刷：小野高速印刷株式会社  
〒670-0933 兵庫県姫路市平野町 62 番地

---